

平成20年度社会的養護における施設ケアに関する 実態調査(タイムスタディ調査)概況

1. タイムスタディ調査について

①調査対象施設数

○児童養護施設	21か所
○乳児院	4か所(平成19年度調査と合わせて6か所)
○情緒障害児短期治療施設	3か所
○児童自立支援施設	2か所
○母子生活支援施設	4か所

②調査対象施設の選定条件等

調査対象施設の選定については、施設種別ごとに職員配置等の条件で抽出を行ったリストの中から、各施設協議会より推薦を受けた施設のうち、調査の協力が得られた施設とした。

○児童養護施設

職員配置等	ケア形態	対象ケア単位数	対象施設数	総児童数
手厚い配置	大舎	1ケア単位 ※	11か所	196人
	小舎・小規模	2ケア単位	7か所	113人
平均的な配置	大舎・中舎	1ケア単位 ※	3か所	52人
計			21か所	361人

○乳児院

職員配置等	ケア形態	対象ケア単位数	対象施設数	総児童数
手厚い配置	小舎・小規模	2ケア単位	2か所	24人
	小舎・小規模以外	1ケア単位	2か所	31人
計			4か所	55人

○情緒障害児短期治療施設

職員配置等	ケア形態	対象ケア単位数	対象施設数	総児童数
入所率高い(80%以上) 手厚い配置	大舎	1ケア単位 ※	1か所	9人
	小舎・小規模	2ケア単位	2か所	29人
計			3か所	38人

○児童自立支援施設

職員配置等	ケア形態	対象ケア単位数	対象施設数	総児童数
入所率高い(60%以上) 手厚い配置	夫婦制	1ケア単位	1か所	12人
	交代制	1ケア単位(寮舎)	1か所	12人
計			2か所	24人

○母子生活支援施設

職員配置等	ケア形態	対象ケア単位数	対象施設数	世帯数	総児童数
入所率高い(70%以上) 手厚い配置	本園のみ	入所世帯すべて	2か所	38世帯	71人
	本園及び 小規模分園	入所世帯すべて	2か所	74世帯	135人
計			4か所	112世帯	206人

※ 大舎の場合は、子どもの生活の単位では計測が難しいことから、ケアを行う職員・対象児童のグループ(ケア単位)を特定し、その単位を調査対象とした。

③調査の概要

本調査は、「施設職員の業務量調査(1分間タイムスタディ調査)」と「入所児童の状態調査(アセスメント調査・突発事象等調査)」の二つの調査により構成される。

1) 施設職員の業務量調査(1分間タイムスタディ調査)

- ・入所児童に対し、どのようなケアを、どのくらい(時間)、施設職員が提供しているのかを数量的に把握する目的で実施する調査。
- ・調査は、児童を日常的にケアする職員が行う2日間タイムスタディ調査(他計式)と、児童を日常的にケアする職員以外が行う7日間タイムスタディ調査(自計式)の二つを実施。

2) 入所児童の状態調査(アセスメント調査・突発事象等調査)

- ・入所児童一人ひとりの心身の状態や突発事象等を把握する目的で実施する調査。
- ・調査は、調査対象とする児童一人ひとりに対して行うアセスメント調査と、突発事象等調査の二つを実施。

2. グループインタビューについて

①グループインタビューの内容と目的

- ・タイムスタディ調査の実施後に、調査時に、調査対象施設において調査員となっており、日常的に児童への直接的なケアに従事している職員を対象とし、調査当時の児童の状態とケア時間・内容についてのグループインタビュー調査を実施。
- ・グループインタビューの目的は、児童の臨床像とケア時間の多寡との関連性をグループインタビューを通じて明確にすることである。

タイムスタディについて

タイムスタディとは？

～ケアを提供している現場で、「どういう職員」が、「どのような子どもに」、
「どのようなケアを」「どのくらい(時間)」提供しているのかを明らかにすることを
目的とした方法

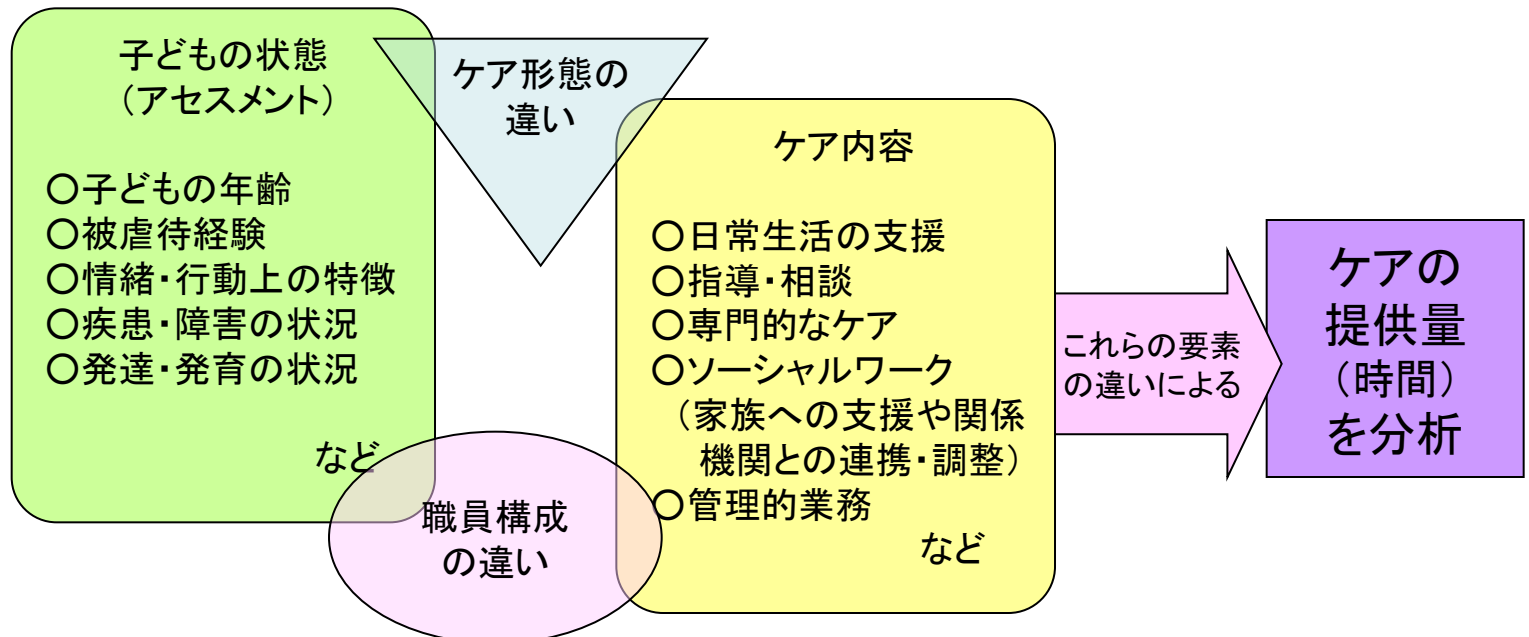
平成20年度社会的養護における施設ケアに関する実態調査(タイムスタディ調査)では、

○「子どもの状態」の違いによるケア内容別ケア時間の差、傾向

○「職員構成」の違いによるケア内容別ケア時間の差、傾向

○「ケア形態」の違いによるケア内容別ケア時間の差、傾向

などについて分析



タイムスタディ調査結果分析の視点

タイムスタディ調査を通じて、社会的養護施設における現状のケアの提供量(×子どもの年齢・状態)について、定量的な把握を行う

平成19年度
実態調査結果

子どもの年齢や状態に応じた
適切なケアの提供量を分析・検討

その他の
調査・研究

現状の要保護児童にとって
適切な施設タイプのあり方の見直し

人員配置基準の引き上げや
措置費の算定基準等の見直しを
含めたケアの改善

今回の集計項目(ポイント)

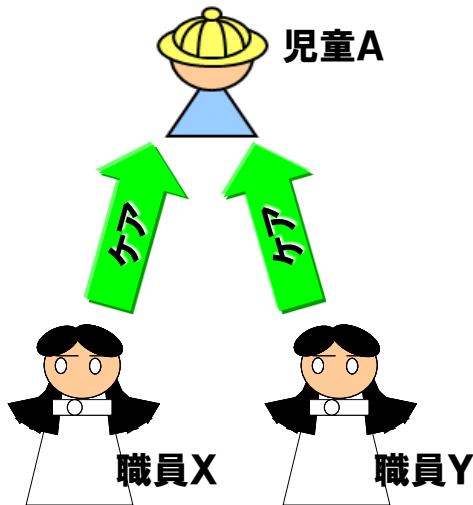
- ✚ 子どもの状態の違い・家庭状況の違いによる子ども一人あたりケアの提供量の比較(施設種別ごと)
 - ・子どもの状況:年齢、性別、入所期間、発達状態、情緒・行動上の特徴、被虐待体験の有無、障害の有無 等
 - ・家庭状況:保護者の状況、家庭復帰の見通しや家族への支援状況 等
- ✚ 各施設種別による子ども一人あたりケアの提供量の比較
 - ・ケア時間平均
 - ・時間階級区分別児童数
 - ・ケア時間業務分類別
 - ・ケア時間時間帯別 等
- ✚ ケア形態、職員配置の手厚さ別による子ども一人あたりケアの提供量の比較
 - ・ケア時間平均
 - ・時間階級区分別児童数
 - ・ケア時間業務分類別
 - ・ケア時間時間帯別 等

※ ケアの負担感(身体的負担感・精神的負担感)については、集計中

タイムスタディ調査における子ども一人あたりのケア時間(1)

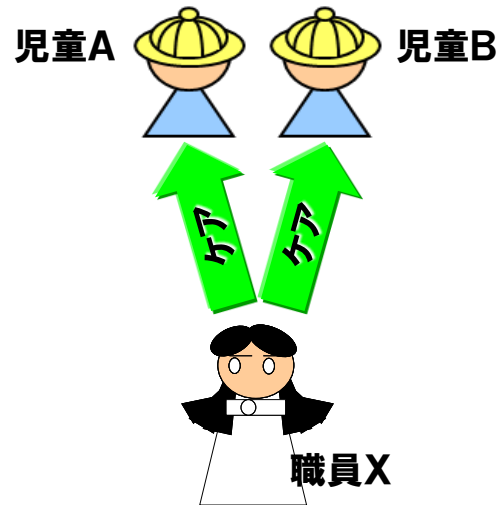
■ ケアの方法と子ども一人あたりケア時間算出方法

児童に複数の職員が同時にケアを行った場合



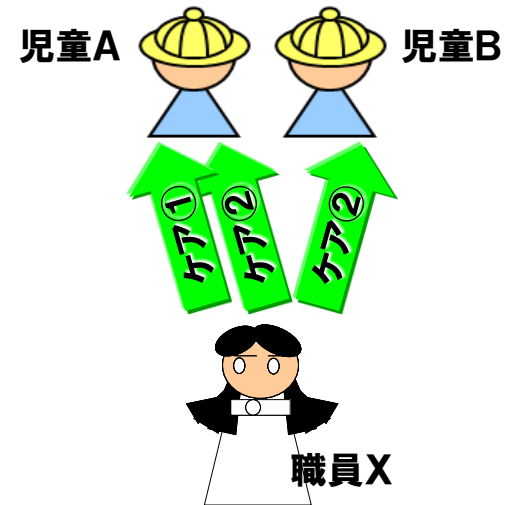
児童Aの一人あたりケア時間
= 児童Aに対する職員Xのケア時間
+ 児童Aに対する職員Yのケア時間

複数の児童に職員が同時にケアを行った場合



児童Aの一人あたりケア時間
= 同時に行った職員Xのケア時間
÷ 2 (児童数)

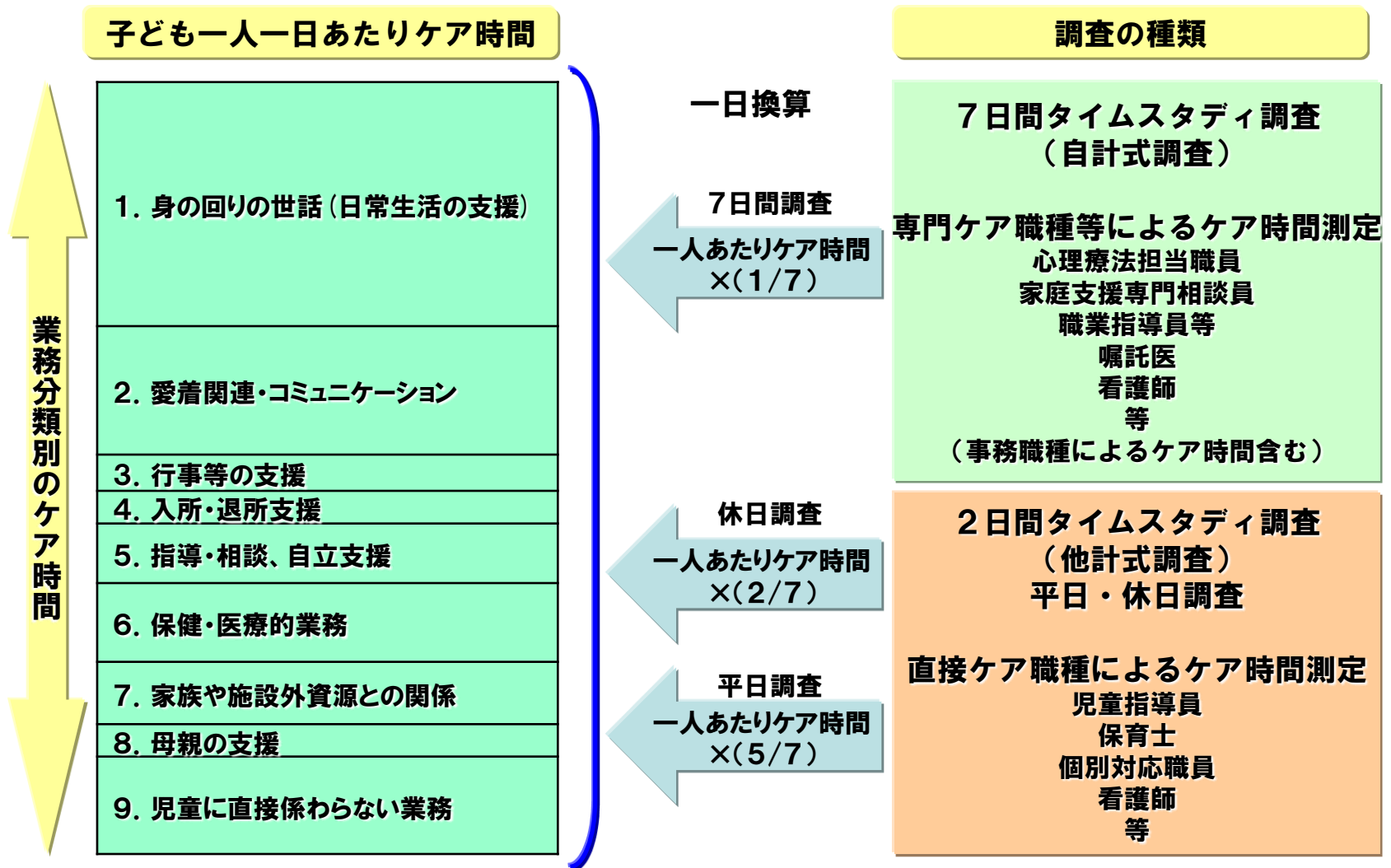
異なる複数のケアを複数の児童に職員が同時にケアを行った場合



児童Aの一人あたりケア時間
= 児童Aに対するケア①のケア時間
〔職員Xのケア時間 ÷ 2 (ケア種)〕
+ 児童Aに対するケア②のケア時間
〔職員Xのケア時間 ÷ 2 (ケア種) ÷ 2 (児童)〕

タイムスタディ調査における子ども一人あたりのケア時間(2)

■ 調査の種類と子ども一人一日あたりケア時間算出方法

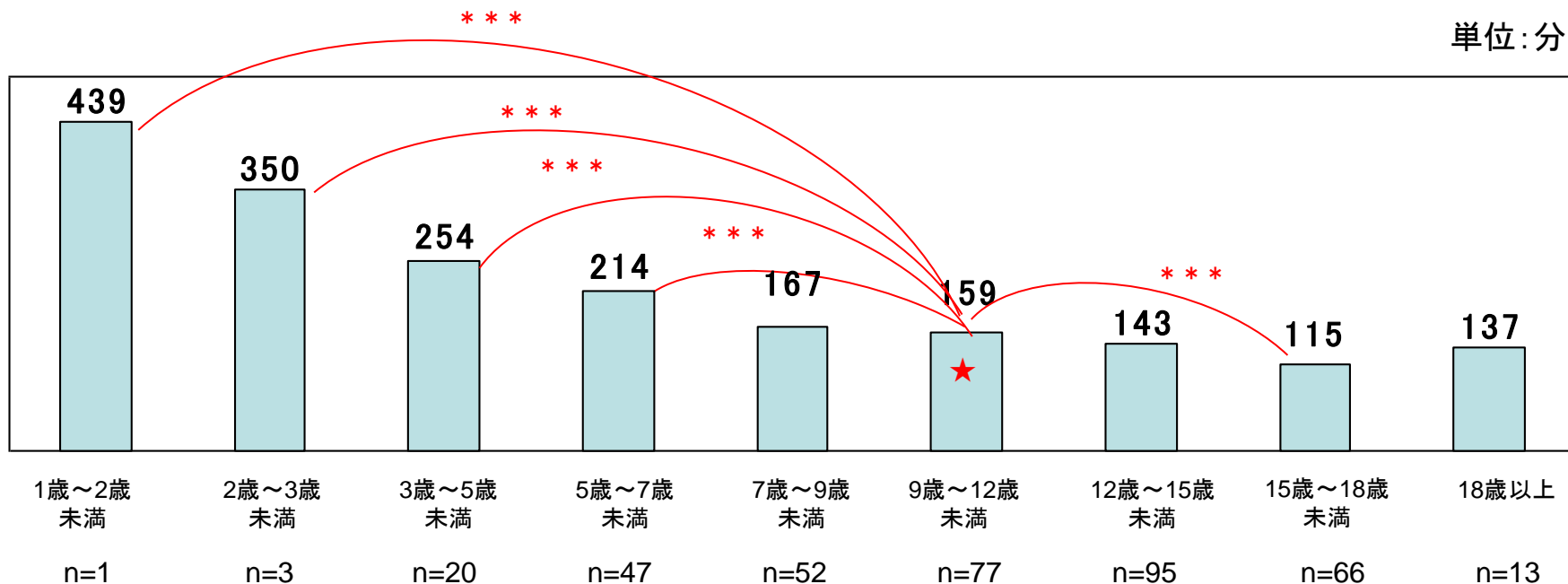


タイムスタディ調査結果(ポイント)

- ✚ 現時点で集計できたタイムスタディ集計結果について、子どもの状態別に、子ども一人あたり総ケア時間／日について、基準値と比べ、統計的に有意差のみられた結果(2集団間に差があるかないかについて、平均値の差の検定(t検定)を用いて統計処理を実施)及び施設種別ごとの概況について、グラフで表記

年齢別子ども一人あたりケア時間／日(児童養護施設)

単位:分



★:基準値

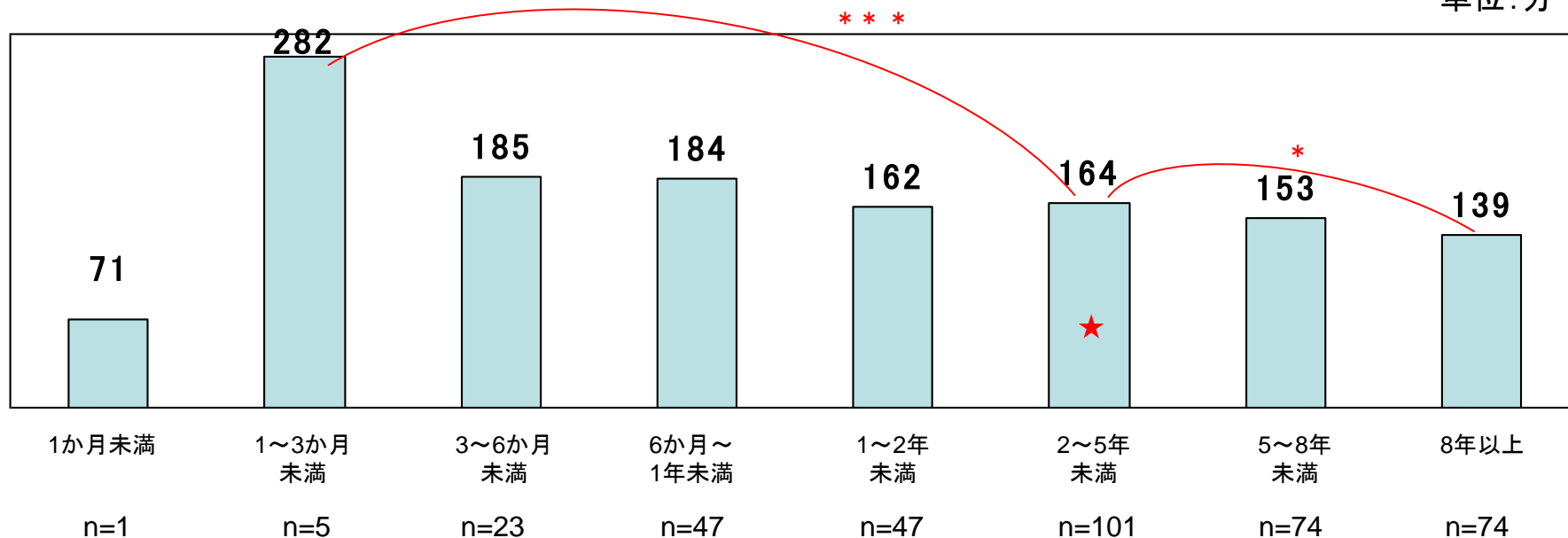
・年齢が高くなるにつれて、子ども一人あたりケア時間が短くなっているが、「18歳以上」でのみ「15歳～18歳未満」より長くなっている。

※「1歳～2歳未満」、「2歳～3歳未満」、「3歳～5歳未満」、「5歳～7歳未満」の方が、「9歳～12歳未満」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(1パーセント水準で有意)。

※「15歳～18歳未満」の方が、「9歳～12歳未満」に比べ、ケア時間が短くなっている(1パーセント水準で有意)。

入所期間別子ども一人あたりケア時間／日(児童養護施設)

単位:分



★:基準値

・「1か月未満(n=1)」を除き、入所期間が短いほど(入所後間もないほど)、ケア時間が長い傾向にある。

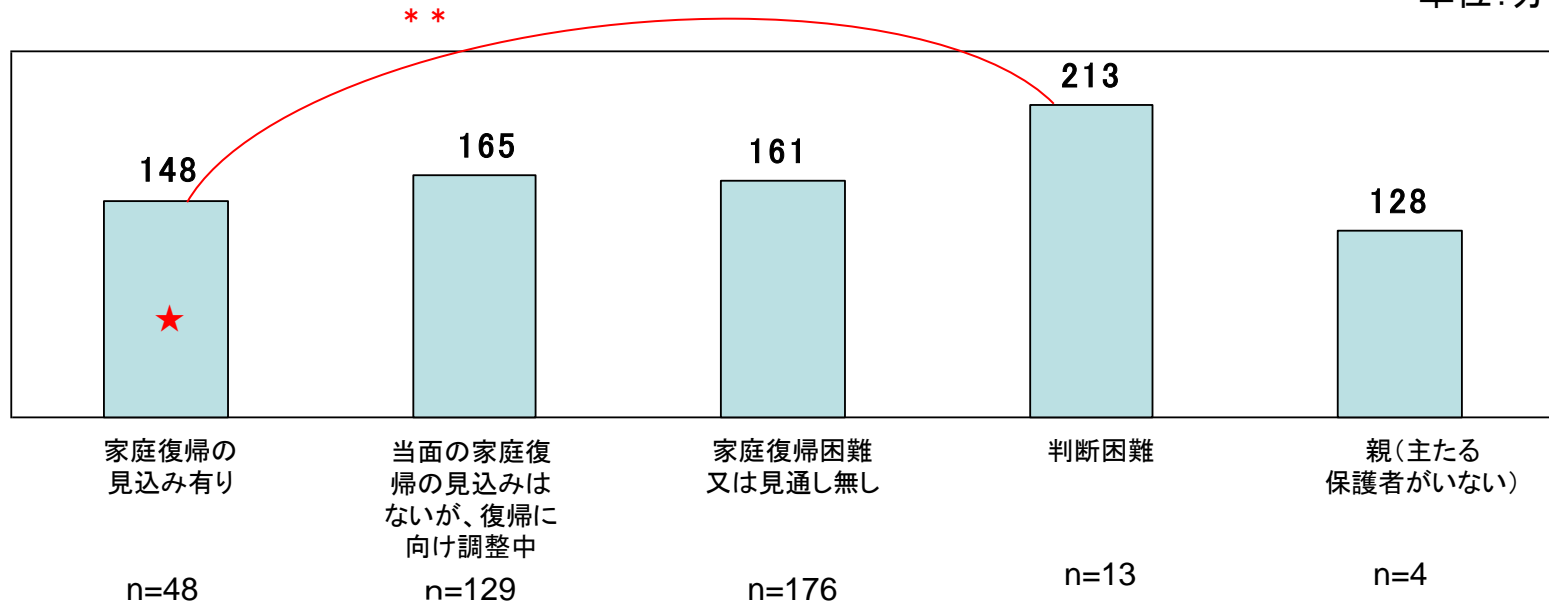
※入所期間が「1~3か月未満」の方が、「2~5年未満」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(1%水準で有意)。

※「8年以上」の方が、「2~5年未満」に比べ、子ども一人あたりケア時間が短くなっている(10%水準で有意傾向)。

【子どもの状態等編】結果(養護)③

家庭復帰の見通し状況別子ども一人あたりケア時間／日
(児童養護施設)

単位:分



★:基準値

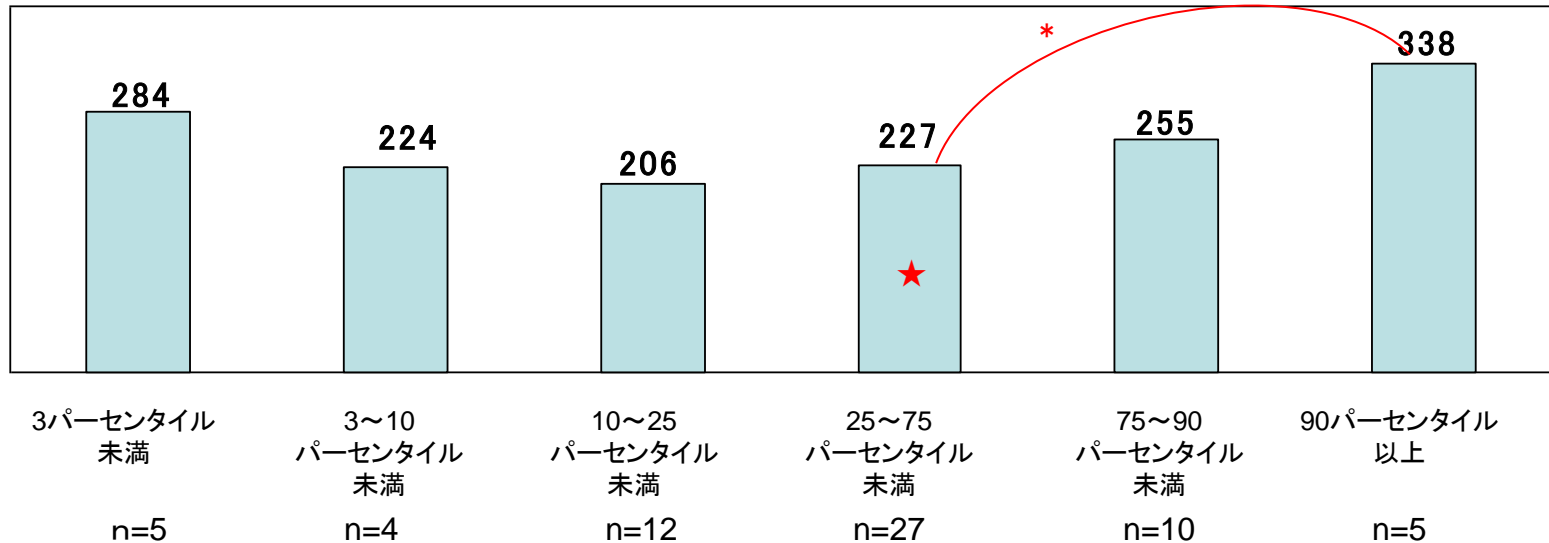
※「判断困難」の方が、「家庭復帰の見込み有り」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(5%水準で有意)。

【子どもの状態等編】結果(養護)④

身体、発育の状態別(体重)子ども一人あたりケア時間／日 (児童養護施設)

※就学前児童のみ

単位:分



★:基準値

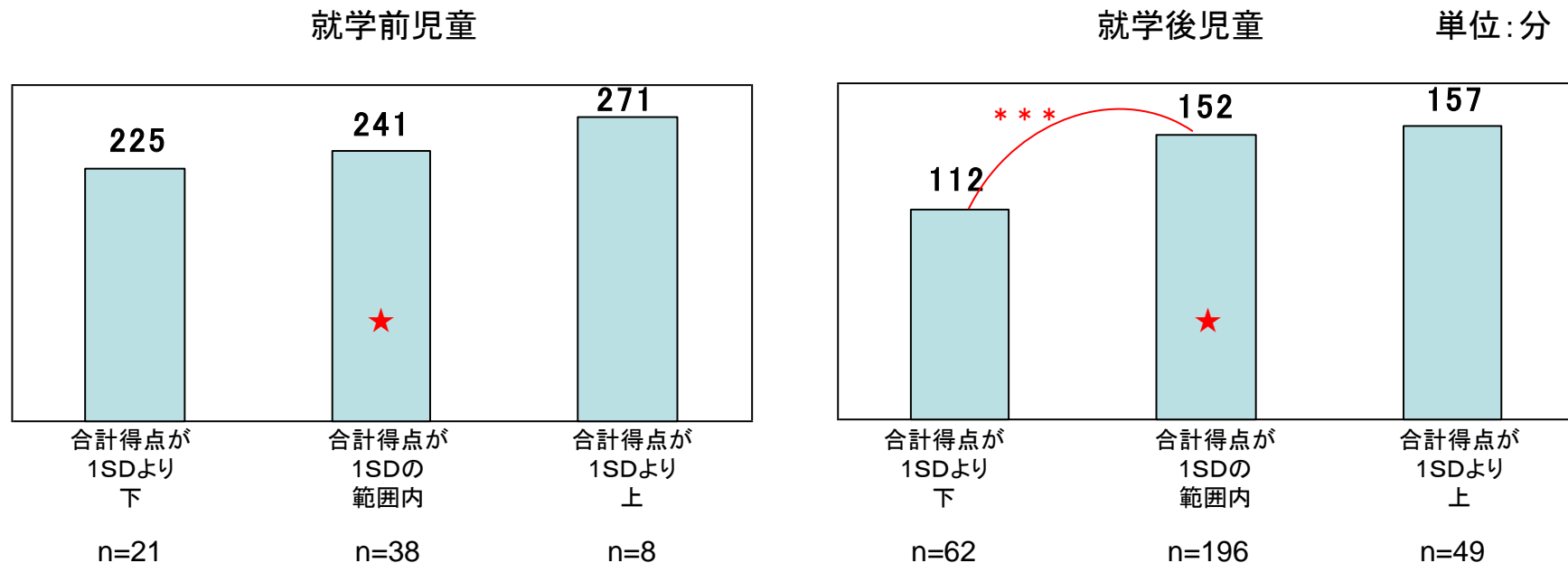
※体重が、「90パーセンタイル以上(とても多い)の方が、「25~75パーセンタイル(標準範囲)」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(10%水準で有意傾向)。

◆乳幼児身体発育曲線による分類
(体重)

3パーセンタイル未満	～ かなり少ない
3~10パーセンタイル未満	～ とても少ない
10~25パーセンタイル未満	～ やや少ない
25~75パーセンタイル未満	～ 標準範囲
75~90パーセンタイル未満	～ やや多い
90パーセンタイル以上	～ とても多い

* ~10%水準で有意傾向

【子どもの状態等編】結果(養護)⑤

情緒・行動上の特徴のレベル別子ども一人あたりケア時間／日
(児童養護施設)

★:基準値

・情緒・行動上の特徴の合計点数が少ないほど、子ども一人あたりケア時間が短くなっている。
 ※就学後児童では、「1SDより下」の方が、「1SDの範囲内」に比べ、子ども一人あたりケア時間が短くなっている(1%水準で有意)。

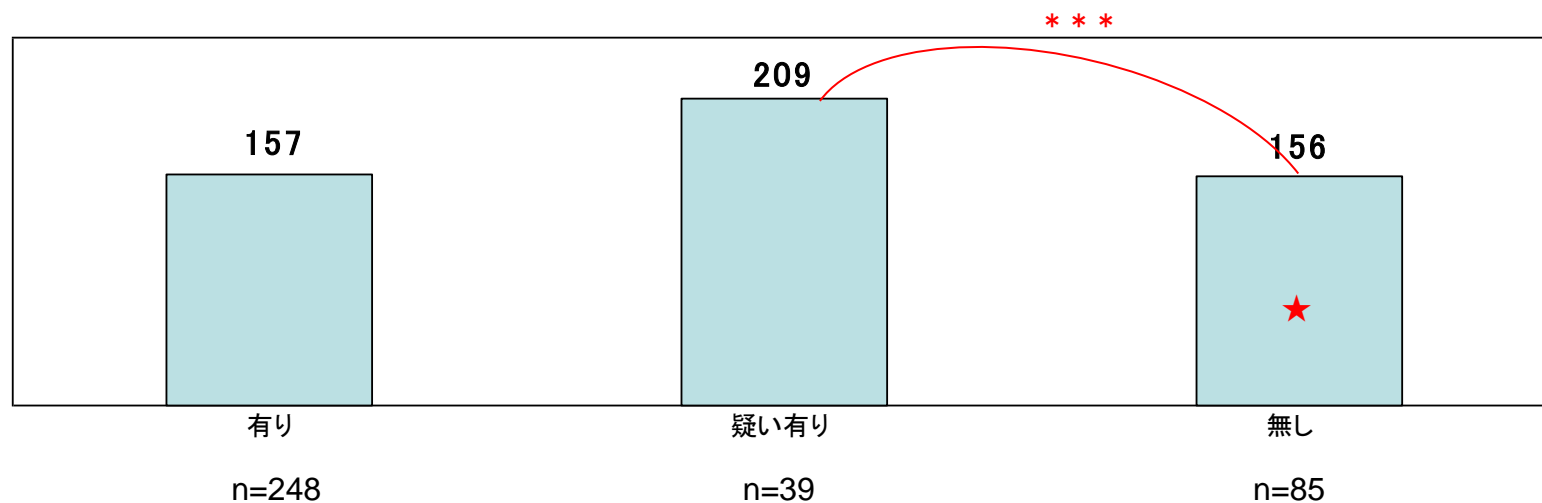
*** ~ 1%水準で有意

合計得点が1SDより下 ~ 標準より情緒・行動上の問題が少ない
 合計得点が1SDの範囲内 ~ 標準範囲
 合計得点が1SDより上 ~ 標準より情緒・行動上の問題が多い

【子どもの状態等編】結果(養護)⑥

被虐待体験の有無別子ども一人あたりケア時間／日
(児童養護施設)

単位:分



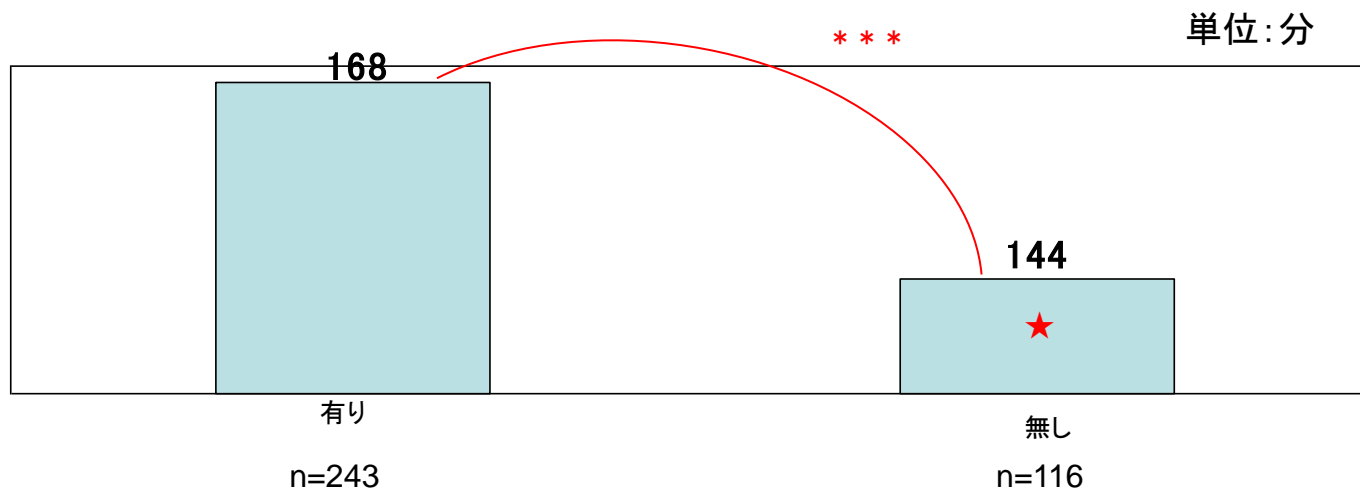
★:基準値

※被虐待体験「疑似有り」の方が、「無し」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている（1%水準で有意）。

*** ~ 1%水準で有意

【子どもの状態等編】結果(養護)⑦

家族への支援の有無別子ども一人あたりケア時間／日 (児童養護施設)



★:基準値

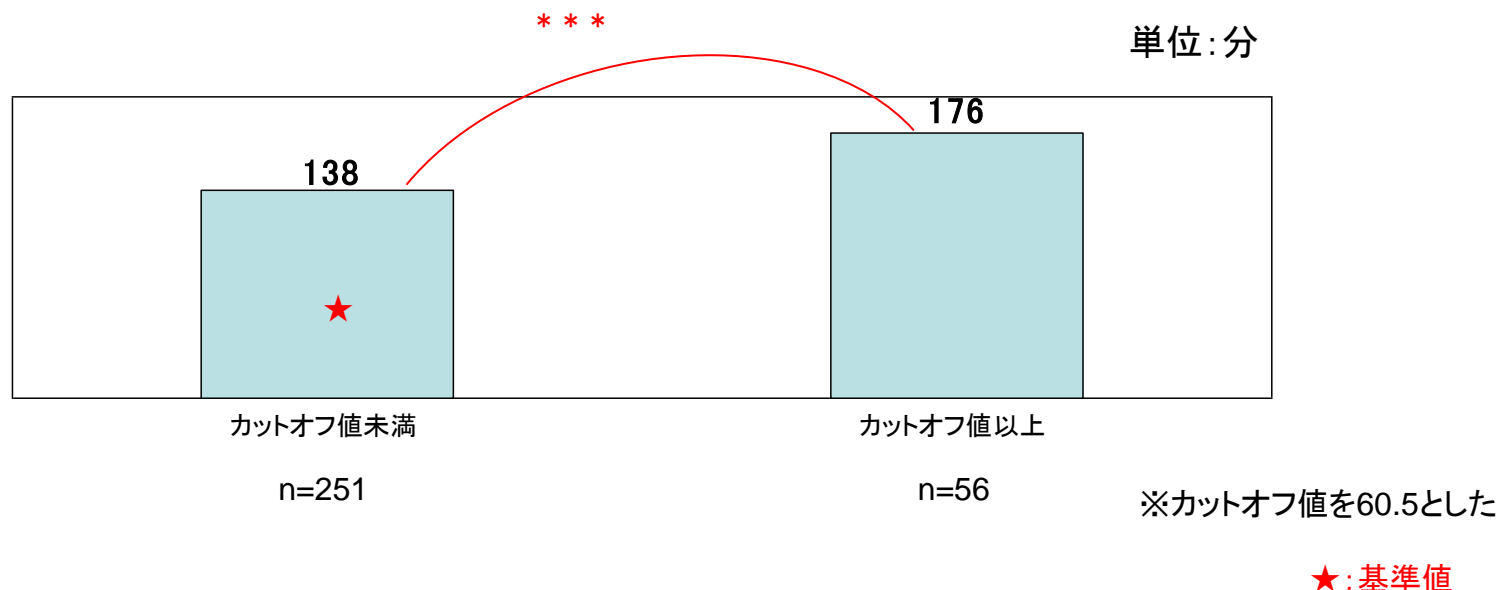
・家族への支援「有り」の方が、子ども一人あたりケア時間が長くなっている。
 ※家族への支援「有り」の方が、「無し」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(1%水準で有意)。

○家族への支援の有無

当該児童の家族等に対する面接や家庭訪問など継続的な
 家族支援の有無

*** ~ 1%水準で有意

【子どもの状態等編】結果(養護)⑧

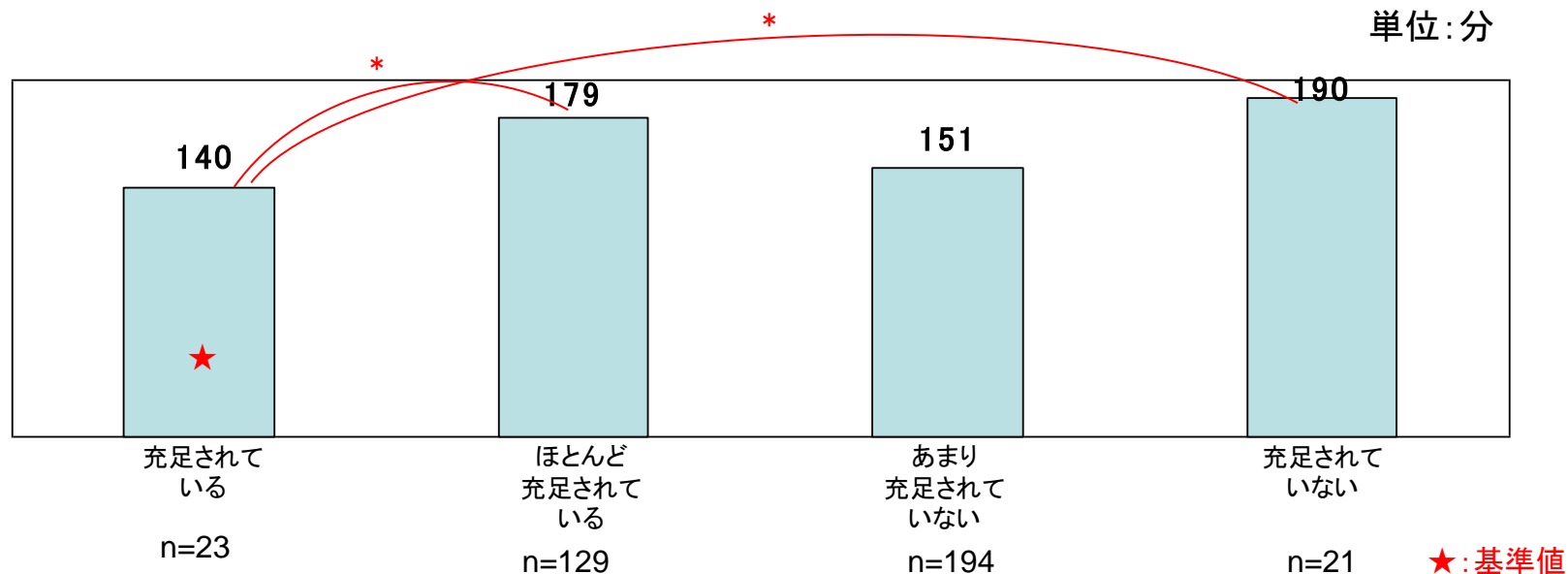
「不適切な養育を受けた子どもの行動チェックリスト(就学後児童)」
の評価レベル別子ども一人あたりケア時間/日(児童養護施設)

・専門的なケアを要する状態にある方が、子ども一人あたりケア時間が長くなっている。
 ※「カットオフ値以上」の方が、「カットオフ値未満」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている
 (1%水準で有意)。

カットオフ値 ~ 専門的なケアを要するかどうかの基準値
 カットオフ値以上 ~ 専門的なケアを要する状態

*** ~ 1%水準で有意

【子どもの状態等編】結果(養護)⑨

ケアニーズの充足状況に関する評価別子ども一人あたり
ケア時間／日(児童養護施設)

※ケアニーズが「ほとんど充足されている」の方が、「充足されている」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(10%水準で有意傾向)。

※ケアニーズが「充足されていない」の方が、「充足されている」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(10%水準で有意傾向)。

○ケアニーズの充足状況

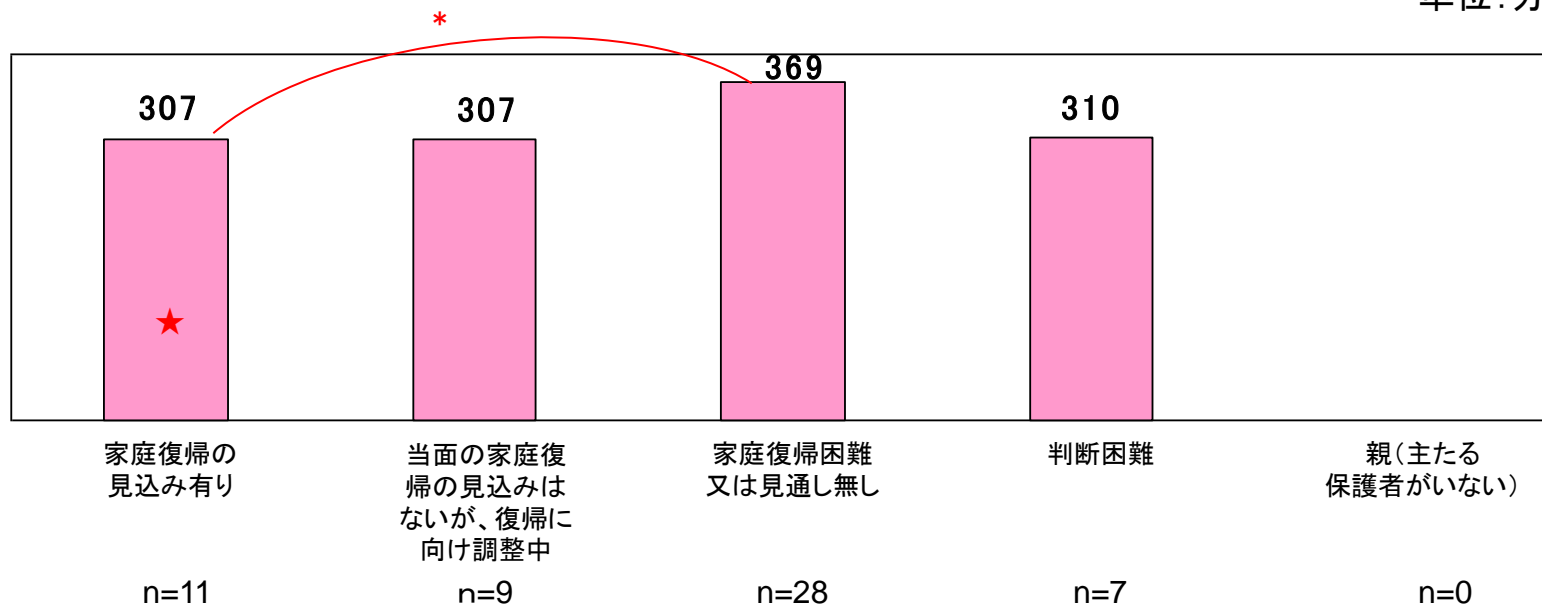
当該児童のケアニーズがどの程度充足されているのかについて、現状の職員数、施設状況等といったサービス提供体制上の制約がないものと仮定して施設職員が評価するもの

* ~10%水準で有意傾向

【子どもの状態等編】結果(乳児)①

家庭復帰の見通し状況別子ども一人あたりケア時間／日
(乳児院)

単位:分



★:基準値

- ・「家庭復帰困難又は見通し無し」が、子ども一人あたりケア時間が最も長くなっている。
- ※「家庭復帰困難又は見通し無し」の方が、「家庭復帰の見込み有り」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(10%水準で有意傾向)。

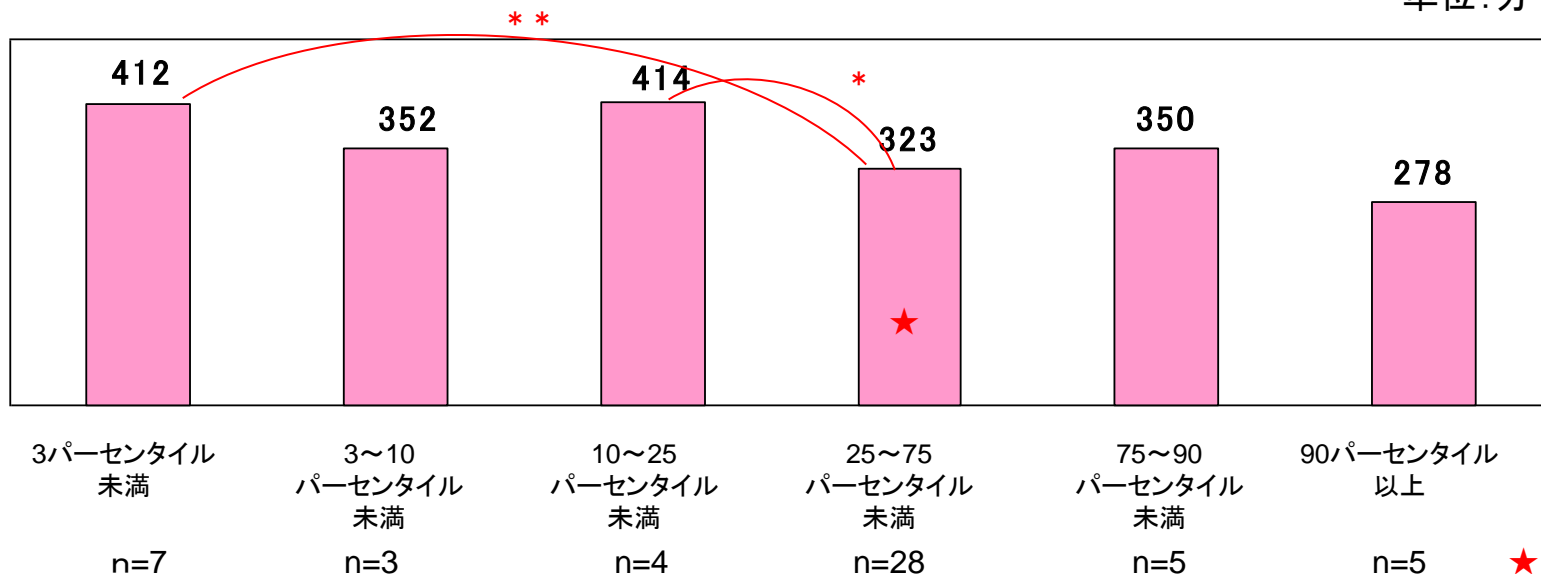
* ~10%水準で有意傾向

【子どもの状態等編】結果(乳児)②

出生時体重別子ども一人あたりケア時間／日 (乳児院)

※就学前児童のみ

単位:分



・出生時体重が標準範囲より少ない方が、子ども一人あたりケア時間が長くなっている。

※出生体重が、「3パーセンタイル未満(かなり少ない)」の方が、「25～75パーセンタイル(標準範囲)」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(5%水準で有意)。

※「10～25パーセンタイル未満(やや少ない)」の方が、「25～75パーセンタイル(標準範囲)」に比べ、子ども一人ケア時間が長くなっている(10%水準で有意傾向)。

◆乳幼児身体発育曲線による分類

3パーセンタイル未満	～ かなり少ない
3～10パーセンタイル未満	～ とても少ない
10～25パーセンタイル未満	～ やや少ない
25～75パーセンタイル未満	～ 標準範囲
75～90パーセンタイル未満	～ やや多い
90パーセンタイル以上	～ とても多い

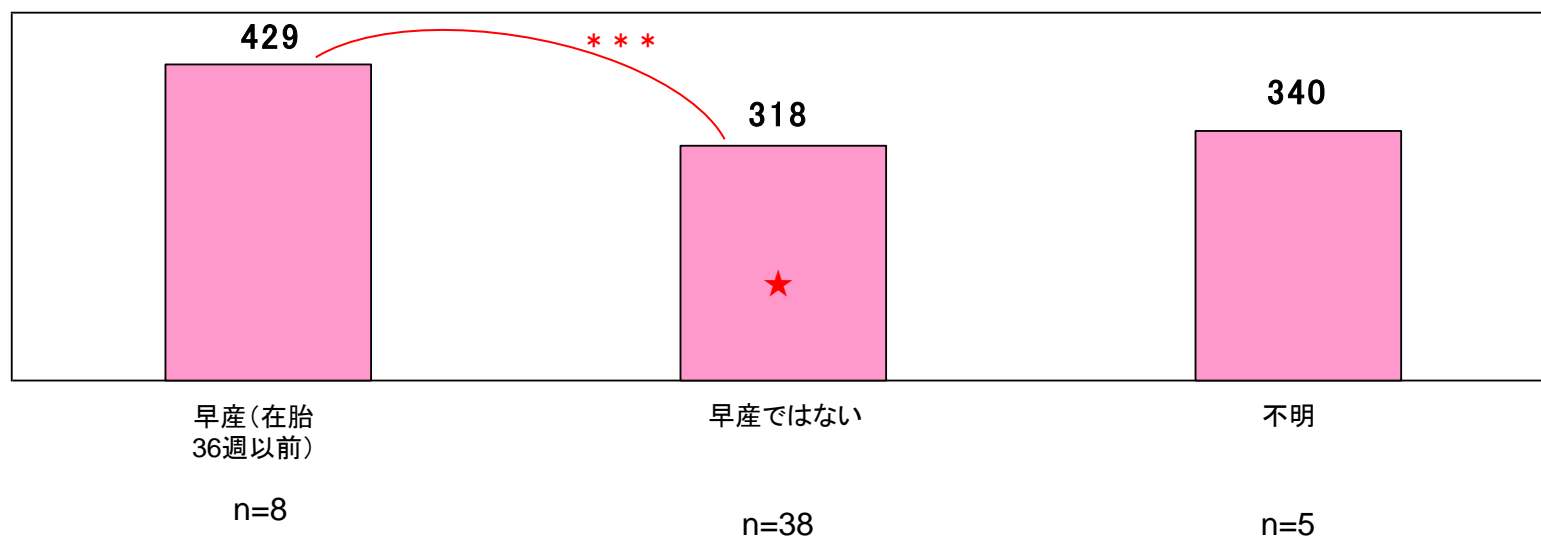
** ～ 5%水準で有意

* ～10%水準で有意傾向

【子どもの状態等編】結果(乳児)③

早産(在胎36週未満)の有無別
子ども一人あたりケア時間/日(乳児院)

単位:分



★:基準値

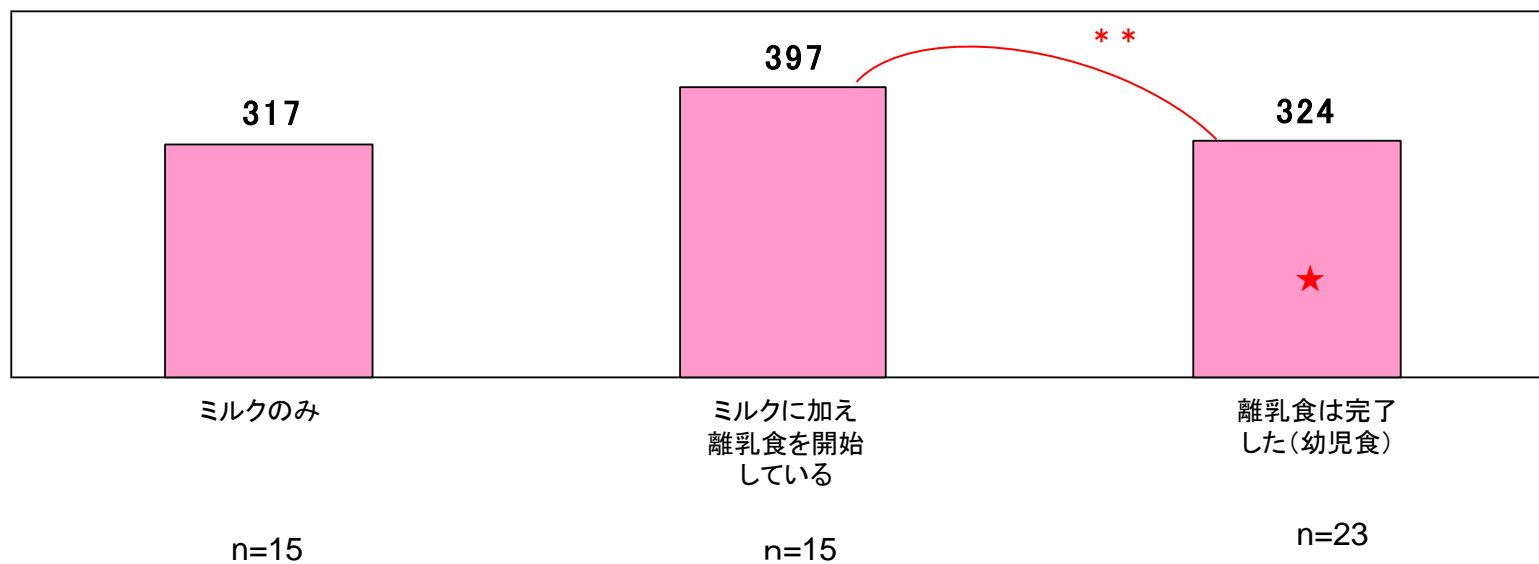
- ・「早産(在胎36週未満)」の方が、子ども一人あたりケア時間が長くなっている。
- ※「早産(在胎36週未満)」の方が、「早産ではない」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(1%水準で有意)。

*** ~ 1%水準で有意

【子どもの状態等編】結果(乳児)④

哺乳・離乳食等の形態別子ども一人あたりケア時間／日
(乳児院)

単位:分



★:基準値

・ 哺乳・離乳食等の形態が、「ミルクに加え離乳食を開始している」が、子ども一人あたりケア時間が最も長くなっている。

※哺乳・離乳食の形態が、「ミルクに加え離乳食を開始している」の方が、「離乳食は完了した(幼児食)」より、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(5%水準で有意)。

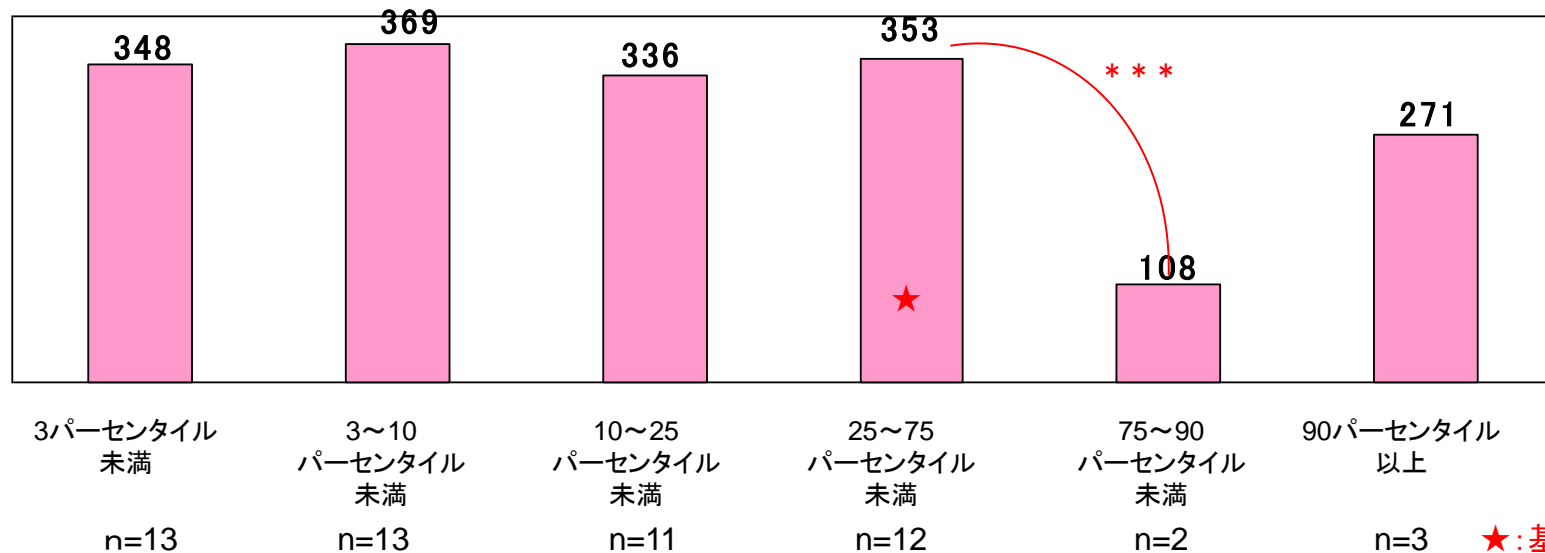
** ~ 5%水準で有意

【子どもの状態等編】結果(乳児)⑤

身体、発育の状態別(身長)子ども一人あたりケア時間/日 (乳児院)

※就学前児童のみ

単位:分



・身長が、「75~90パーセンタイル未満(やや高い)」が、子ども一人あたりケア時間が最も短くなっている。

※身長が、「75~90パーセンタイル未満(やや高い)」の方が、「25~75パーセンタイル(標準範囲)」に比べ、子ども一人あたりケア時間が短くなっている(1%水準で有意)。

◆乳幼児身体発育曲線による分類(身長)

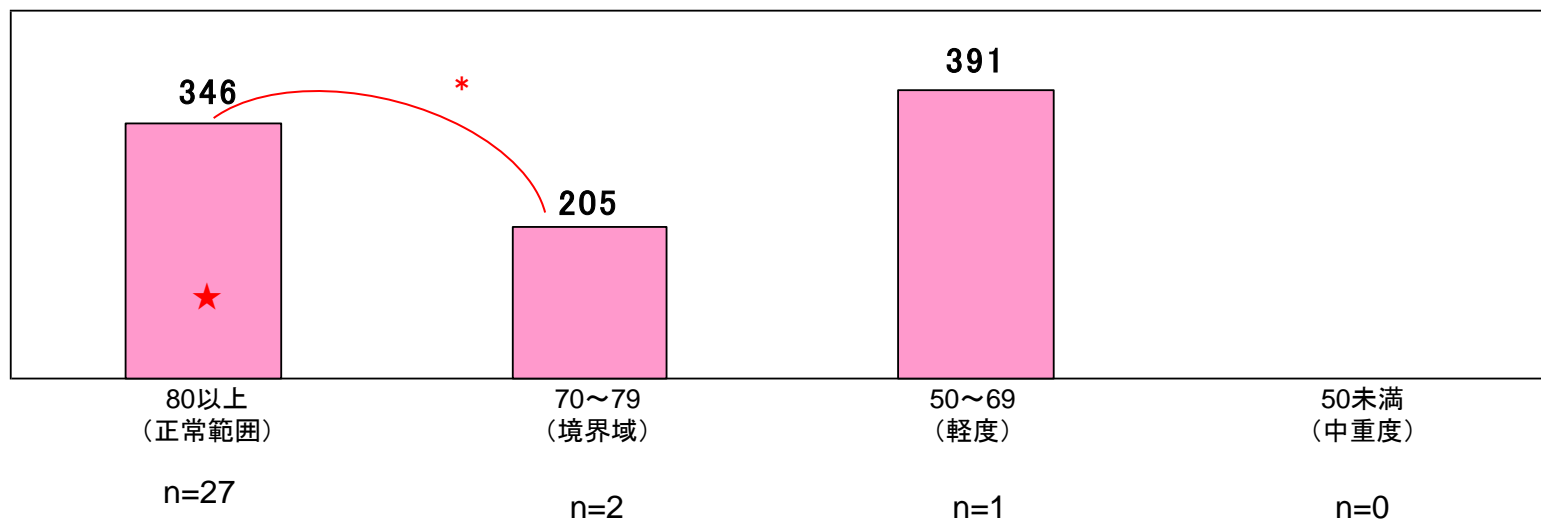
3パーセンタイル未満	~ かなり低い
3~10パーセンタイル未満	~ とても低い
10~25パーセンタイル未満	~ やや低い
25~75パーセンタイル未満	~ 標準範囲
75~90パーセンタイル未満	~ やや高い
90パーセンタイル以上	~ とても高い

*** ~ 1%水準で有意

【子どもの状態等編】結果(乳児)⑥

発達指数別子ども一人あたりケア時間／日
(乳児院)

単位:分



★:基準値

・発達指数が「境界域」の方が、子ども一人あたりケア時間が短くなっている。

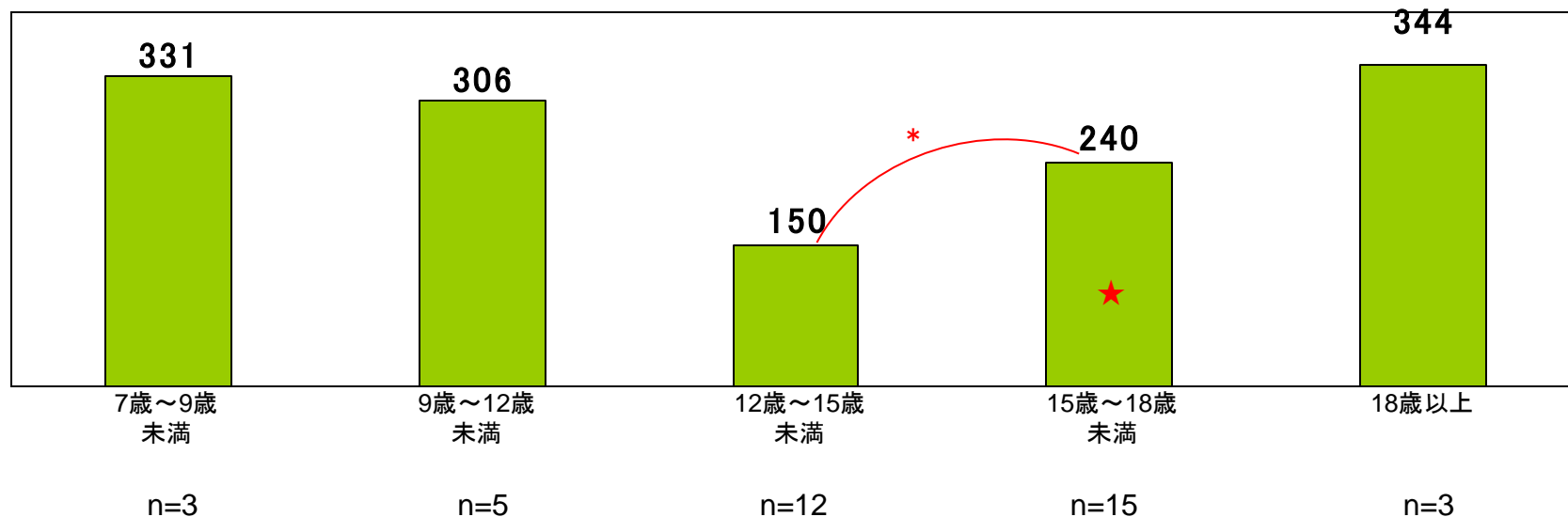
※発達指数が「70~79(境界域)」の方が、「80以上(正常範囲)」に比べ、子ども一人あたりケア時間が短くなっている(10%水準で有意傾向)。

* ~10%水準で有意傾向

【子どもの状態等編】結果(情短)①

年齢別子ども一人あたりケア時間／日
(情緒障害児短期治療施設)

単位:分



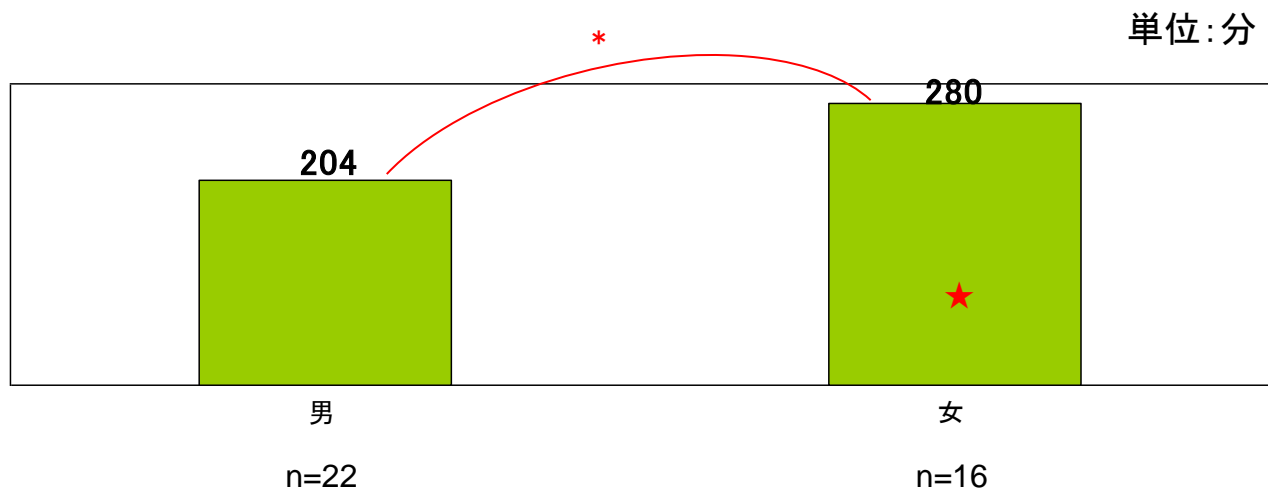
★:基準値

・「12歳～15歳未満」が子ども一人あたりケア時間が最も短くなっている。

※「12歳～15歳未満」の方が、「15歳～18歳未満」に比べ、10%水準で子ども一人あたりケア時間が短くなっている(10%水準で有意傾向)。

* ~10%水準で有意傾向

【子どもの状態等編】結果(情短)②

男女別子ども一人あたりケア時間／日
(情緒障害児短期治療施設)

★:基準値

・「女児」の方が「男児」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている。

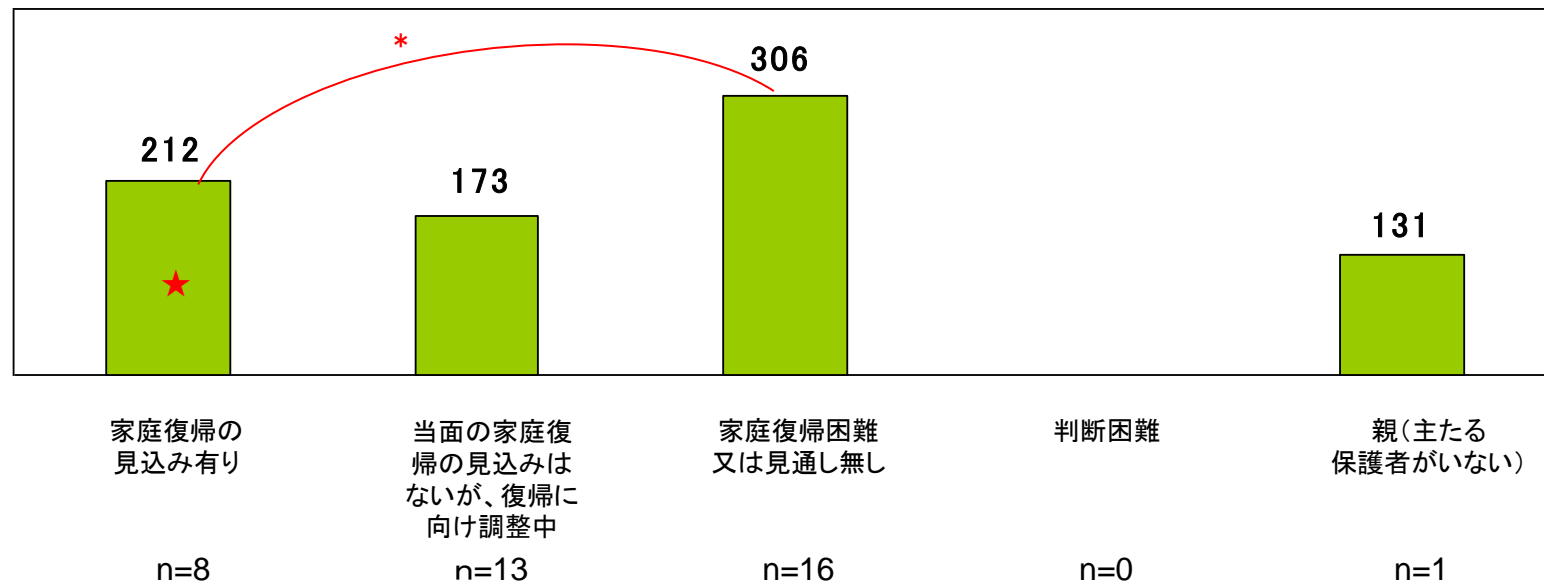
※「女児」の方が、「男児」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(10%水準で有意傾向)。

* ~10%水準で有意傾向

【子どもの状態等編】結果(情短)③

家庭復帰の見通し状況別子ども一人あたりケア時間／日
(情緒障害児短期治療施設)

単位:分



★:基準値

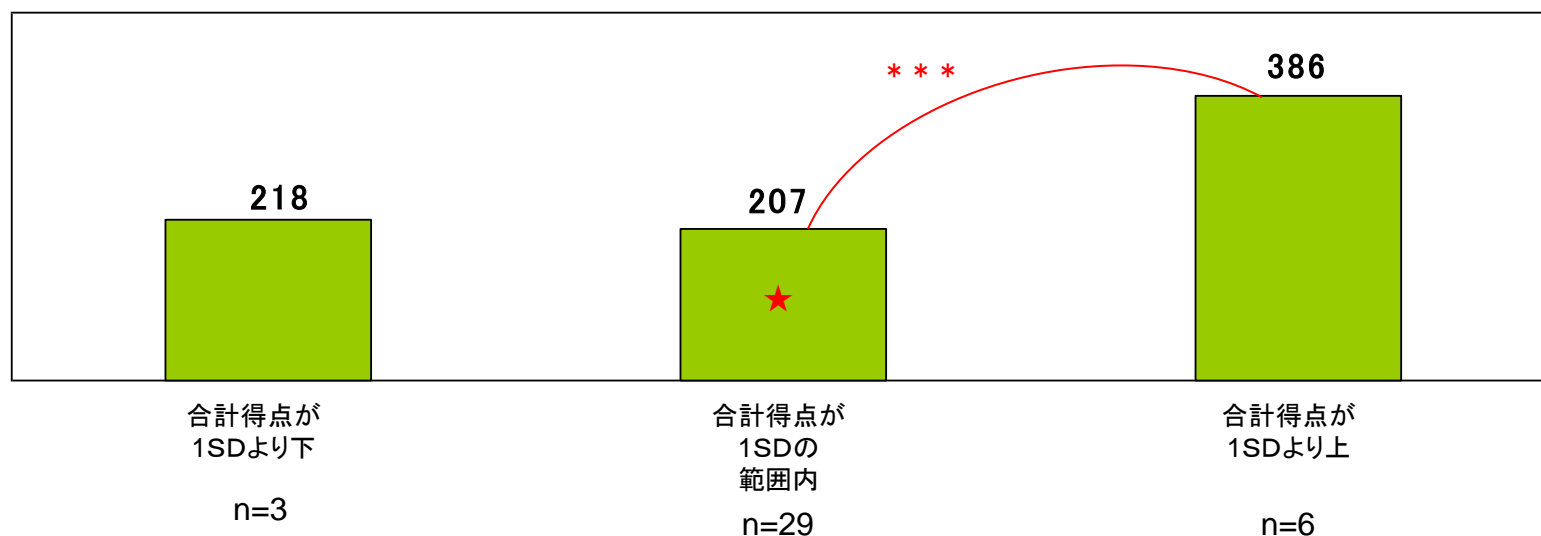
- ・「家庭復帰困難又は見通し無し」が、子ども一人あたりケア時間が最も長くなっている。
- ※「家庭復帰困難又は見通し無し」の方が、「家庭復帰の見込み有り」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(10%水準で有意傾向)。

* ~10%水準で有意傾向

【子どもの状態等編】結果(情短)④

情緒・行動上の特徴のレベル別子ども一人あたりケア時間／日
(情緒障害児短期治療施設)

単位:分



★:基準値

・情緒・行動上の特徴の問題が多い方が、子ども一人あたりケア時間が高くなっている。

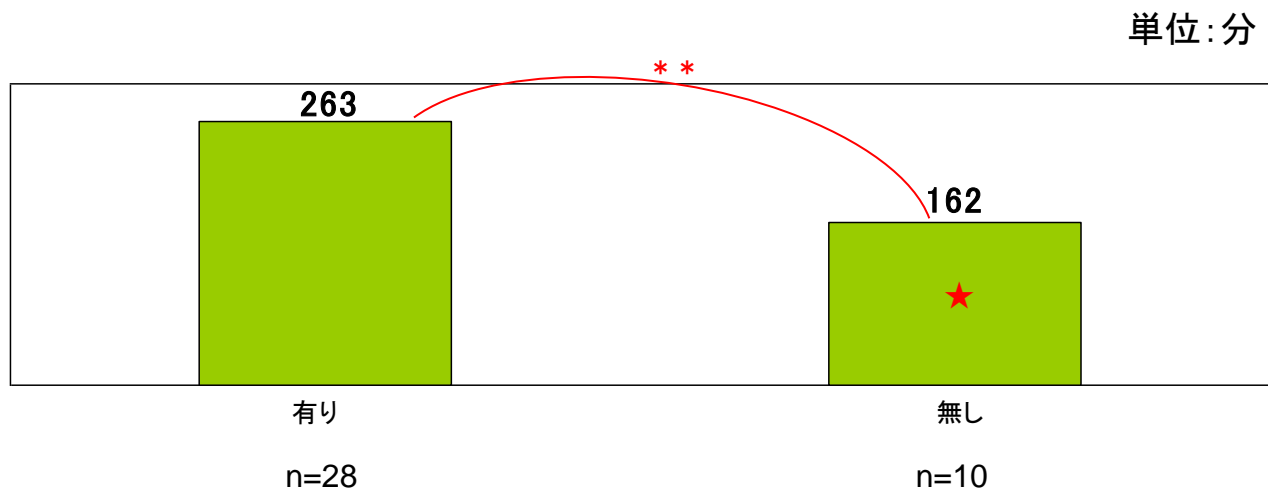
※情緒・行動上の特徴の合計得点が、「合計得点1SDより上」の方が、「1SDの範囲内」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(1%水準で有意)。

*** ~ 1%水準で有意

合計得点が1SDより下	~ 標準より情緒・行動上の問題が少ない
合計得点が1SDの範囲内	~ 標準範囲
合計得点が1SDより上	~ 標準より情緒・行動上の問題が多い

【子どもの状態等編】結果(情短)⑤

家族への支援の有無別子ども一人あたりケア時間／日 (情緒障害児短期治療施設)



★:基準値

・家族への支援「有り」の方が、子ども一人あたりケア時間が長くなっている。

※家族への支援「有り」の方が、「無し」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(5%水準で有意)。

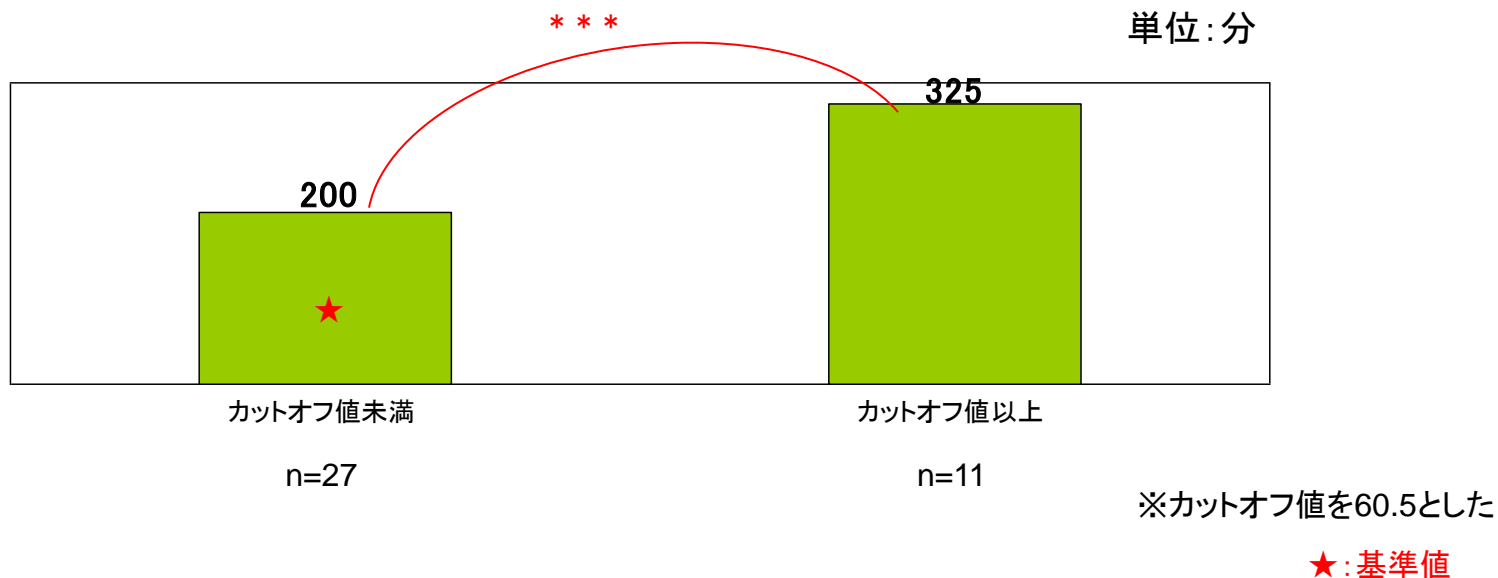
○家族への支援の有無

当該児童の家族等に対する面接や家庭訪問など継続的な
家族支援の有無

** ~ 5%水準で有意

【子どもの状態等編】結果(情短)⑥

「不適切な養育を受けた子どもの行動チェックリスト(就学後児童)」
 の評価レベル別子ども一人あたりケア時間/日
 (情緒障害児短期治療施設)

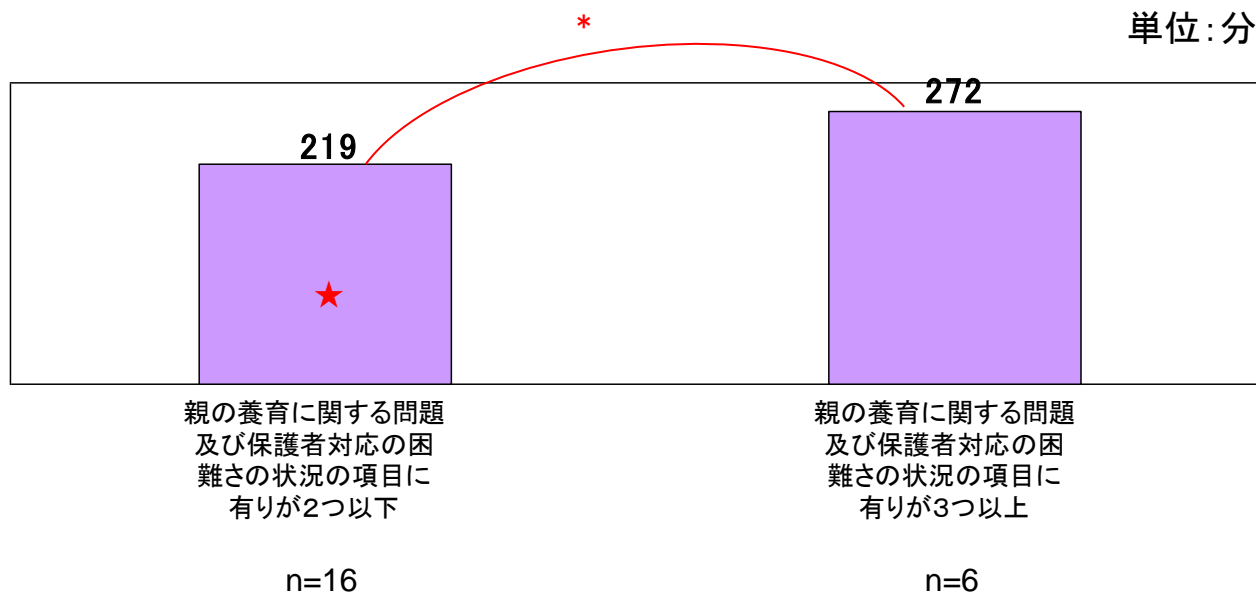


・専門的なケアを要する状態にある方が、子ども一人あたりケア時間が長くなっている。
 ※「カットオフ値以上」の方が、「カットオフ値未満」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている
 (1%水準で有意)。

カットオフ値 ~ 専門的なケアを要するかどうかの基準値
 カットオフ値以上 ~ 専門的なケアを要する状態

*** ~ 1%水準で有意

【子どもの状態等編】結果(自立)①

親の養育に関する問題及び保護者対応の困難さの状況別
子ども一人あたりケア時間／日(児童自立支援施設)

・親の養育に関する問題及び保護者対応の困難さがある方が、子ども一人あたりケア時間が長くなっている。

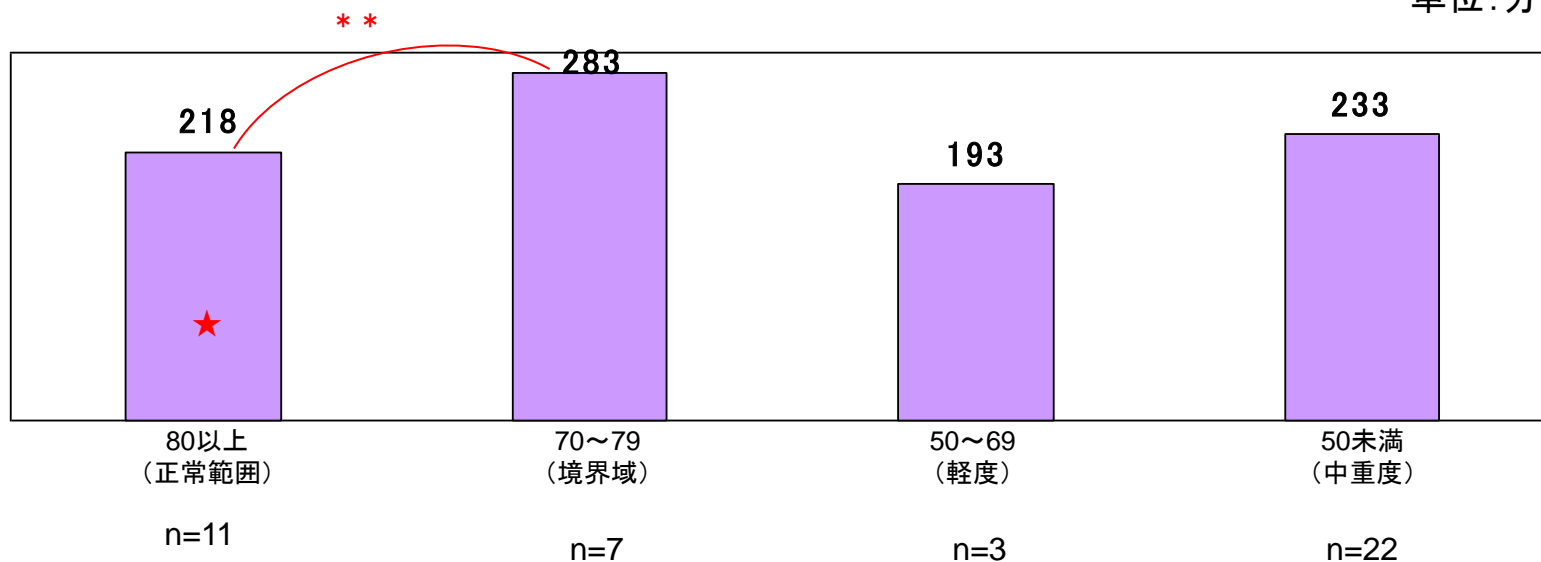
※「親の養育に関する問題及び保護者対応の困難さの状況の項目に有りが3つ以上」の方が、「親の養育に関する問題及び保護者対応の困難さの状況の項目に有りが2つ以下」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(10%水準で有意傾向)。

* ~10%水準で有意傾向

【子どもの状態等編】結果(自立)②

知能指数別子ども一人あたりケア時間／日
(児童自立支援施設)

単位:分

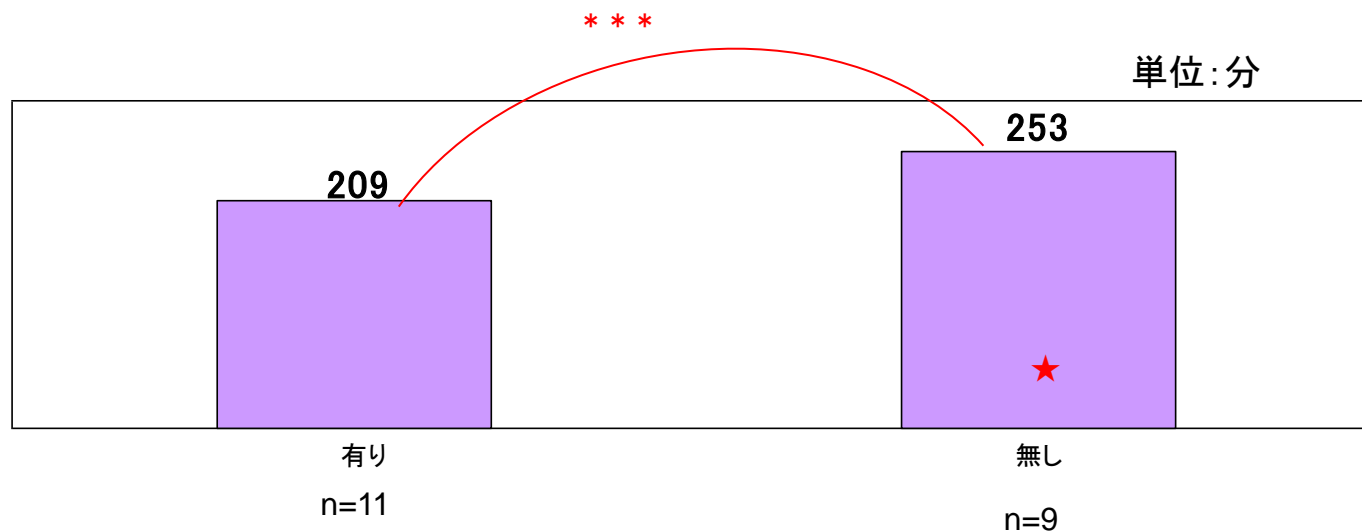


★:基準値

・知能指数が「70~79(境界域)」が、子ども一人あたりケア時間が最も長くなっている。
※知能指数が「70~79(境界域)」の方が、「80以上(正常範囲)」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(5%水準で有意)。

** ~ 5%水準で有意

【子どもの状態等編】結果(自立)③

定期的な通院の有無別子ども一人あたりケア時間／日
(児童自立支援施設)

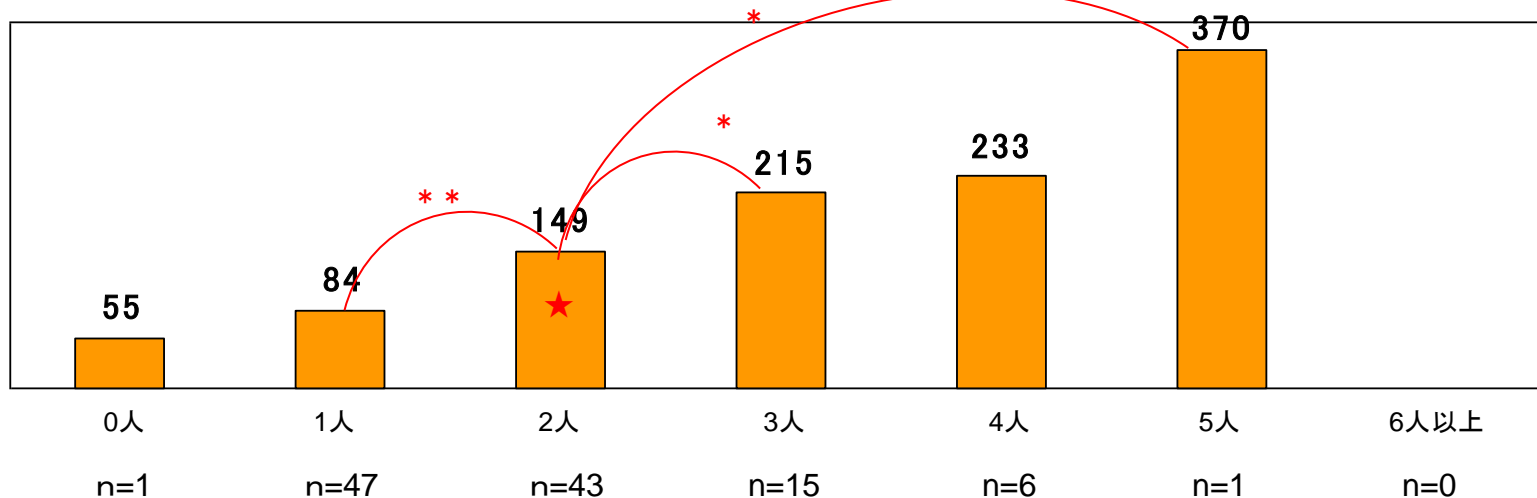
★:基準値

・定期的な通院「有り」の方が、子ども一人あたりケア時間が短くなっている。
※定期的な「有り」の方が、「無し」に比べ、子ども一人あたりケア時間が短くなっている(1%水準で有意)。

【母親の状態等編】結果(母子・世帯)①

世帯児童数別一世帯あたりケア時間／日
(母子生活支援施設)

単位:分



★:基準値

・子どもの数が多くなるにつれて、一世帯あたりケア時間が長くなっている。

※子どもの数が「3人」及び「5人」の方が、「2人」に比べ、一世帯あたりケア時間が長くなっている(10%水準で有意傾向)。

※子どもの数が「1人」の方が、「2人」に比べ、一世帯あたりケア時間が短くなっている(5%水準で有意)。

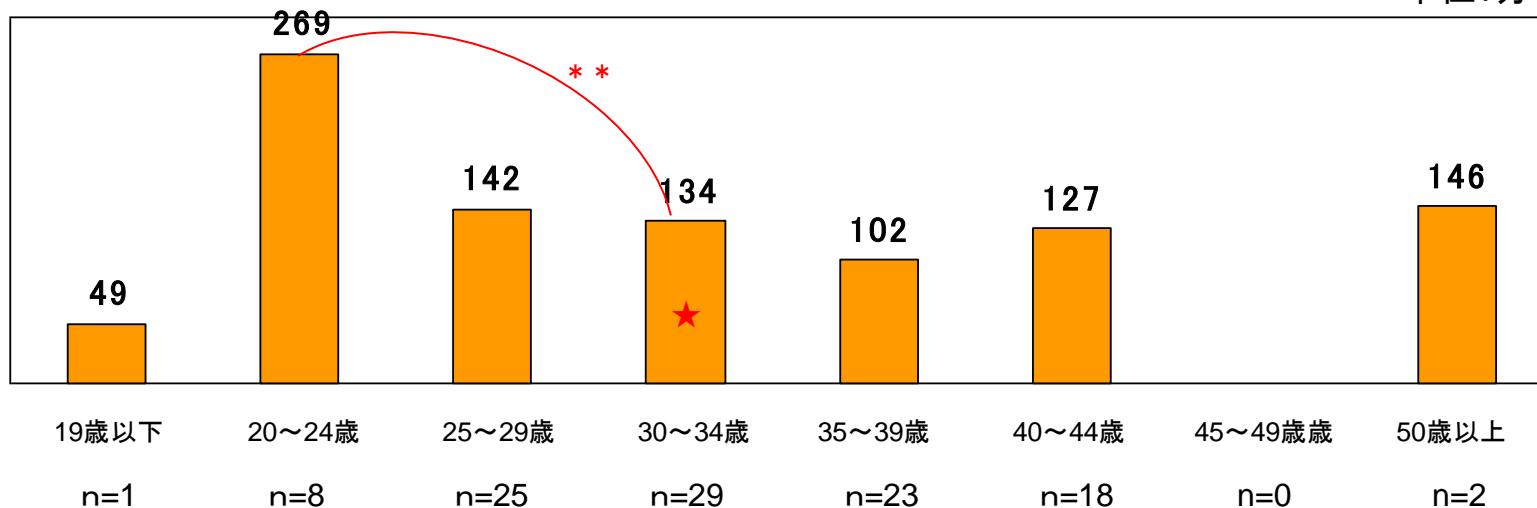
** ~ 5%水準で有意

* ~ 10%水準で有意傾向

【母親の状態等編】結果(母子・世帯)②

母親の年齢階層別一世帯あたりケア時間／日
(母子生活支援施設)

単位:分

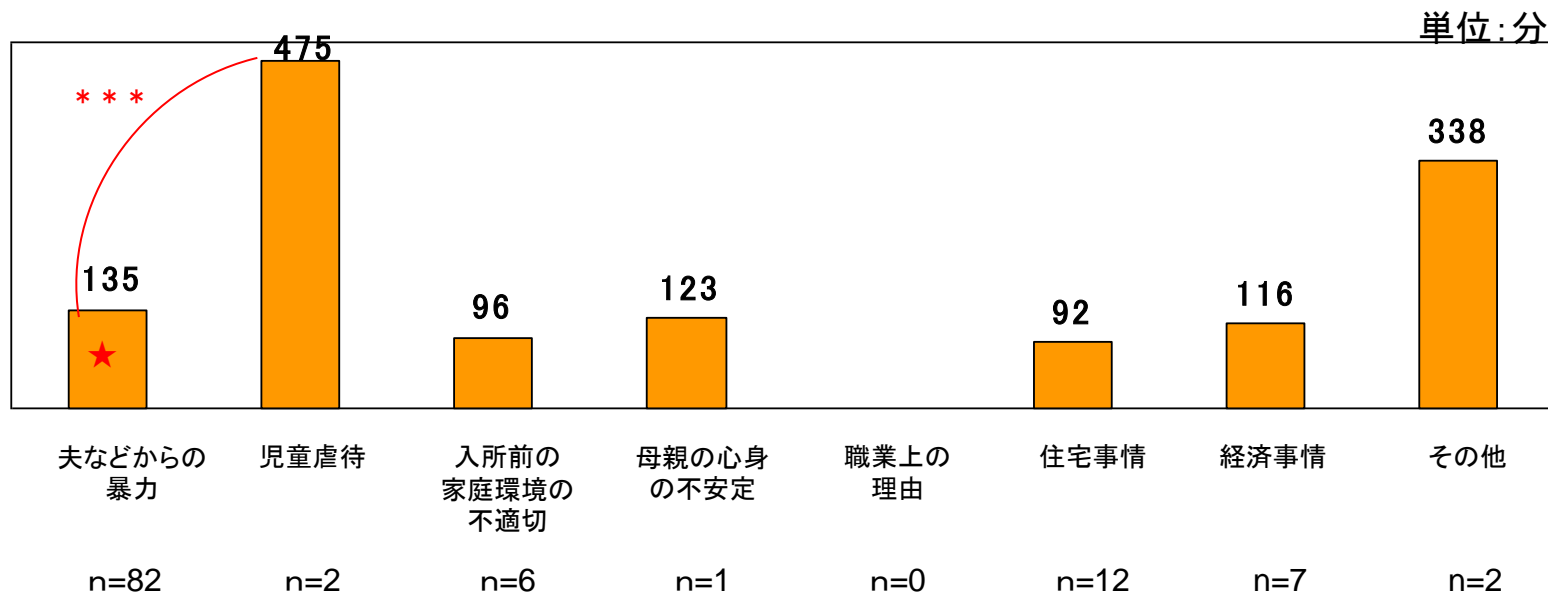


★:基準値

・母親の年齢が、「20～24歳」が最も一世帯あたりケア時間が長くなっている。

※母親の年齢が「20～24歳」の方が、「30～34歳」に比べ、一世帯あたりケア時間が長くなっている(5%水準で有意)。

【母親の状態等編】結果(母子・世帯)③

主たる入所理由別一世帯あたりケア時間／日
(母子生活支援施設)

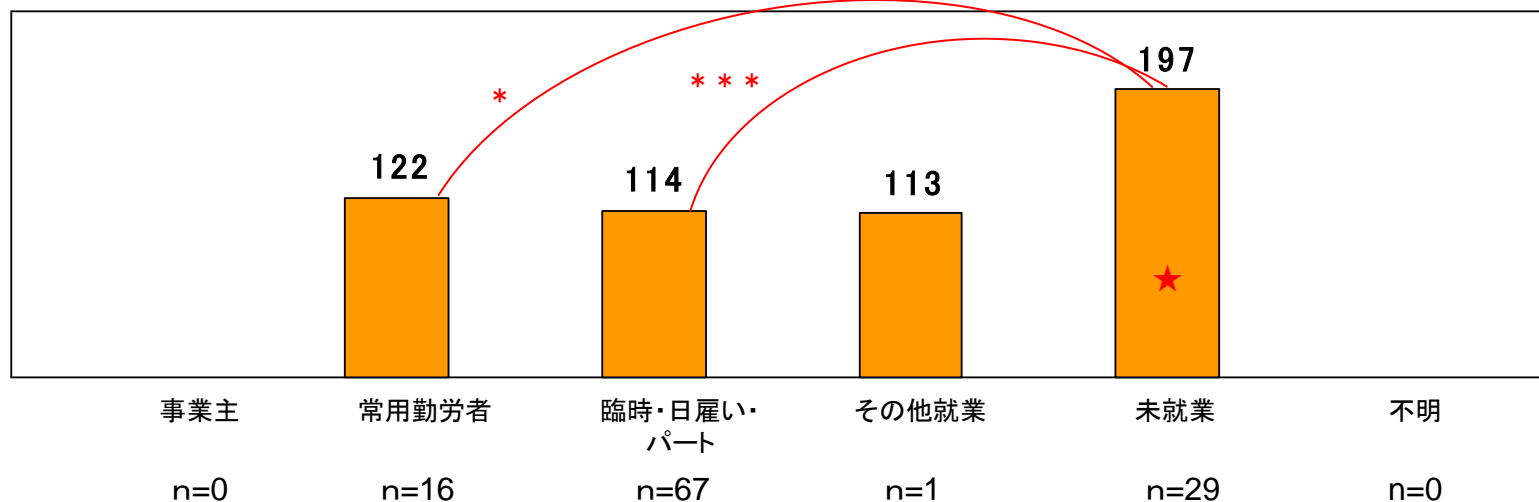
★:基準値

・主たる入所理由については、「児童虐待」が一世帯あたりケア時間が最も長くなっている。
 ※「児童虐待」の方が、「夫などからの暴力」に比べ、一世帯あたりケア時間が長くなっている(1%水準で有意)。

【母親の状態等編】結果(母子・世帯)④

母親の就業状況別一世帯あたりケア時間／日
(母子生活支援施設)

単位:分



★:基準値

・母親の就業状況が、「就業」の方が、一世帯あたりケア時間が短くなっている。

※母親の就業状況が「臨時・日雇い・パート」の方が、「未就業」に比べ、一世帯あたりケア時間が短くなっている(1%水準で有意)。

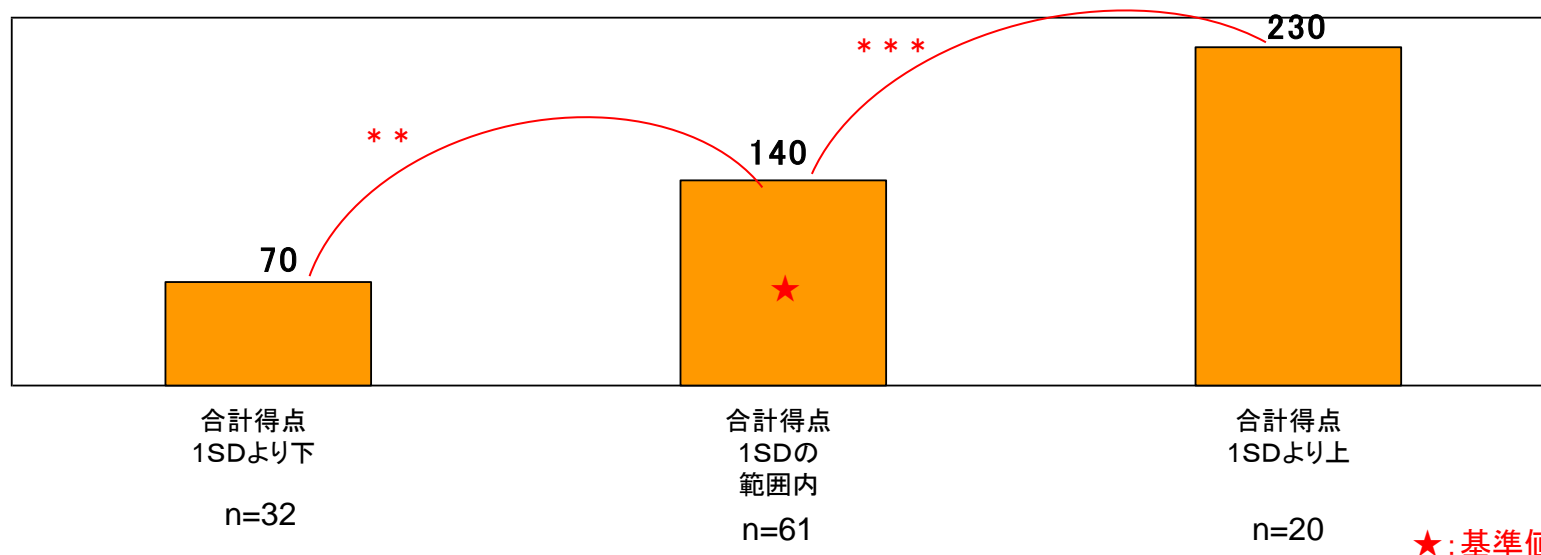
※母親の就業状況が「常用勤労者」の方が、「未就業」に比べ、一世帯あたりケア時間が短くなっている(10%水準で有意傾向)。

*** ~ 1%水準で有意 * ~ 10%水準で有意傾向

【母親の状態等編】結果(母子・世帯)⑤

情緒・行動上の特徴(母親)のレベル別 一世帯あたりケア時間／日(母子生活支援施設)

単位:分



・母親の情緒・行動上の問題が多いほど、一世帯あたりのケア時間が長くなっている。

※母親の情緒・行動上の特徴の合計得点が、「1SDより上」の方が、「1SDの範囲内」に比べ、一世帯あたりケア時間が長くなっている(1%水準で有意)。

※母親の情緒・行動上の特徴の合計得点が、「1SDより下」の方が、「1SDの範囲内」に比べ、一世帯あたりケア時間が短くなっている(5%水準で有意)。

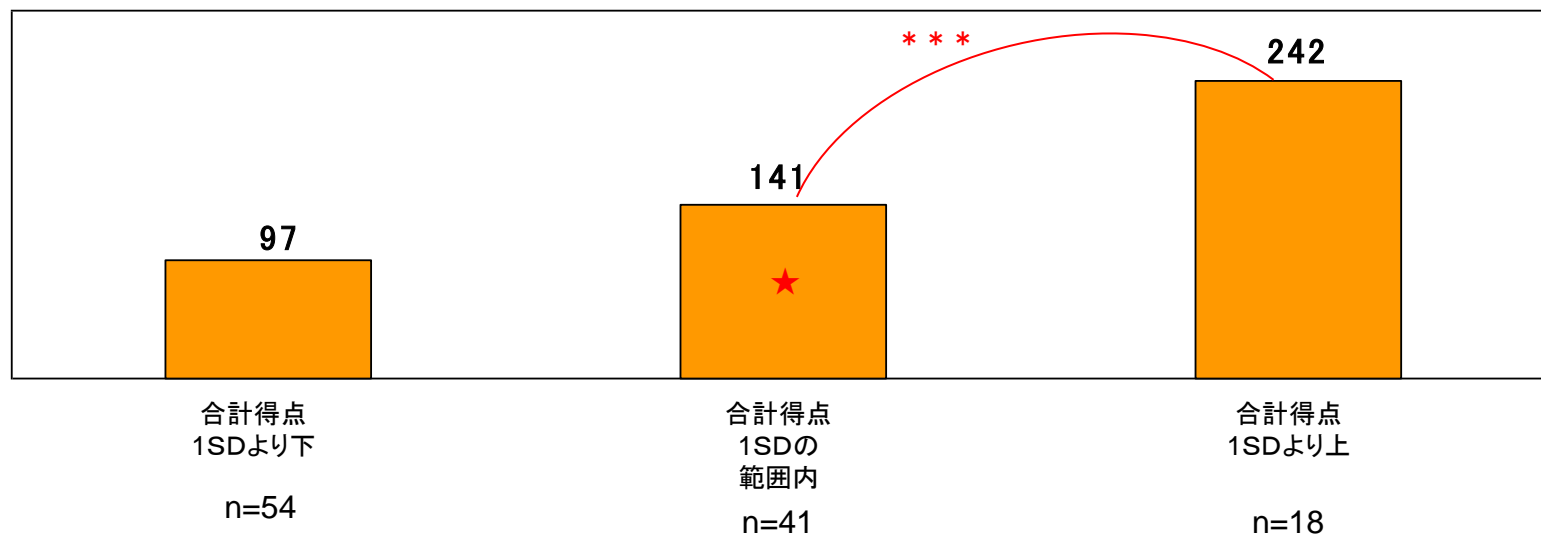
合計得点が1SDより下 ~ 標準より情緒・行動上の問題が少ない
 合計得点が1SDの範囲内 ~ 標準範囲
 合計得点が1SDより上 ~ 標準より情緒・行動上の問題が多い

*** ~ 1%水準で有意 ** ~ 5%水準で有意

【母親の状態等編】結果(母子・世帯)⑥

情緒・行動上の特徴(母子関係)のレベル別
一世帯あたりケア時間／日(母子生活支援施設)

単位:分



★:基準値

・母子関係の情緒・行動上の問題が多い方が、一世帯あたりのケア時間が長くなっている。
 ※母子関係についての、情緒・行動上の特徴の合計得点が、「1SDより上」の方が「1SDの範囲内」に
 比べ、一世帯あたりケア時間が長くなっている(1%水準で有意)。

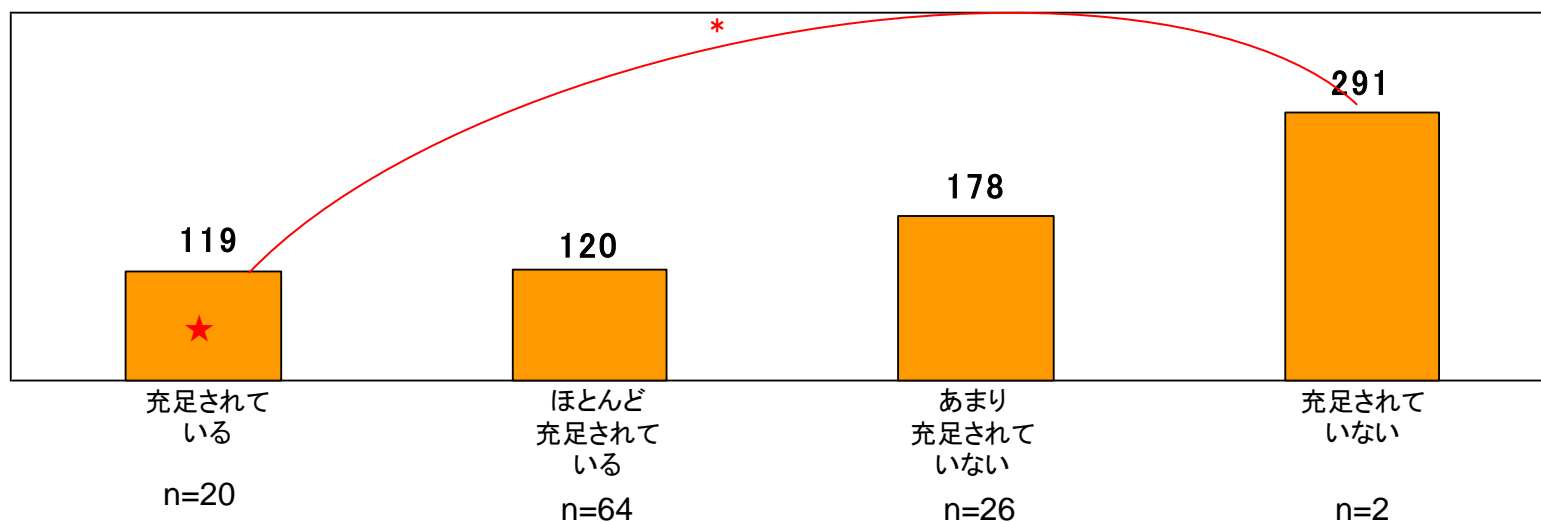
*** ~ 1%水準で有意

合計得点が1SDより下	~ 標準より情緒・行動上の問題が少ない
合計得点が1SDの範囲内	~ 標準範囲
合計得点が1SDより上	~ 標準より情緒・行動上の問題が多い

【母親の状態等編】結果(母子・世帯)⑦

ケアニーズの充足状況に関する評価別 一世帯あたりケア時間／日(母子生活支援施設)

単位:分



★:基準値

・ケアニーズ充足度が低いほど、一世帯あたりケア時間が長くなっている。

※ケアニーズが「充足されていない」の方が、「充足されている」に比べ、一世帯あたりケア時間が長くなっている(10%水準で有意傾向)。

○ケアニーズの充足状況

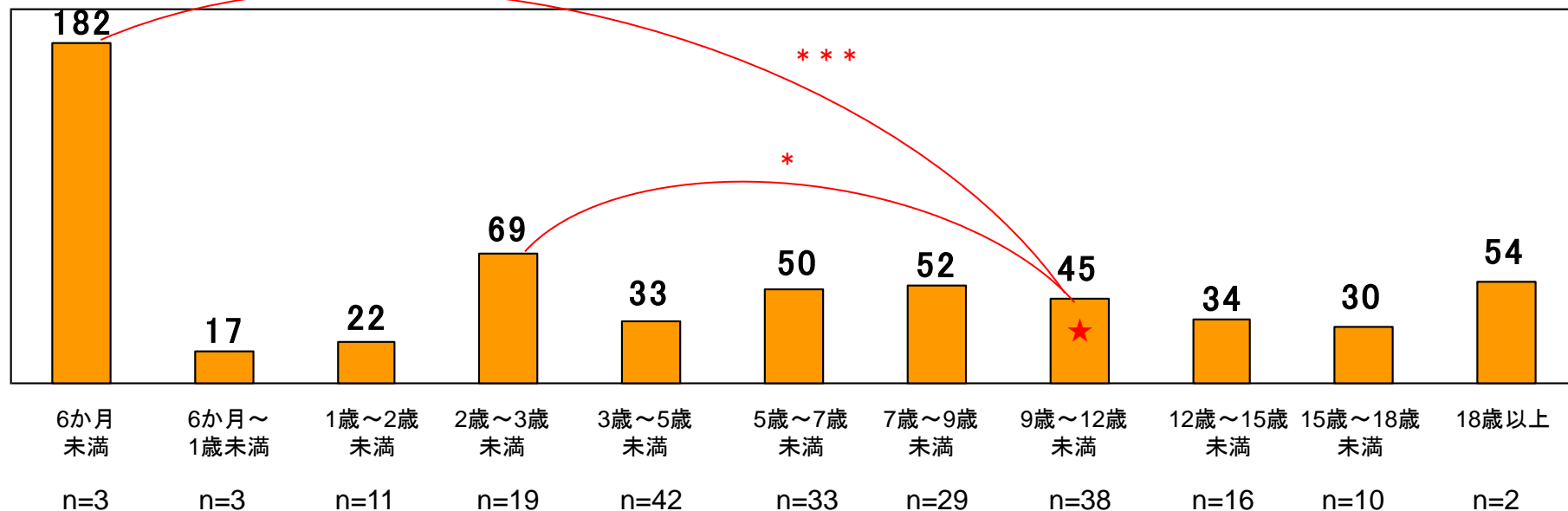
当該児童のケアニーズがどの程度充足されているのかについて、現状の職員数、施設状況等といったサービス提供体制上の制約がないものと仮定して、施設職員が評価するもの

* ~ 10%水準で有意傾向

【子ども状態等編】結果(母子・児童)①

子どもの年齢別子ども一人あたりケア時間／日 (母子生活支援施設)

単位:分



★:基準値

・「6か月未満」が、他の年齢層に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている。

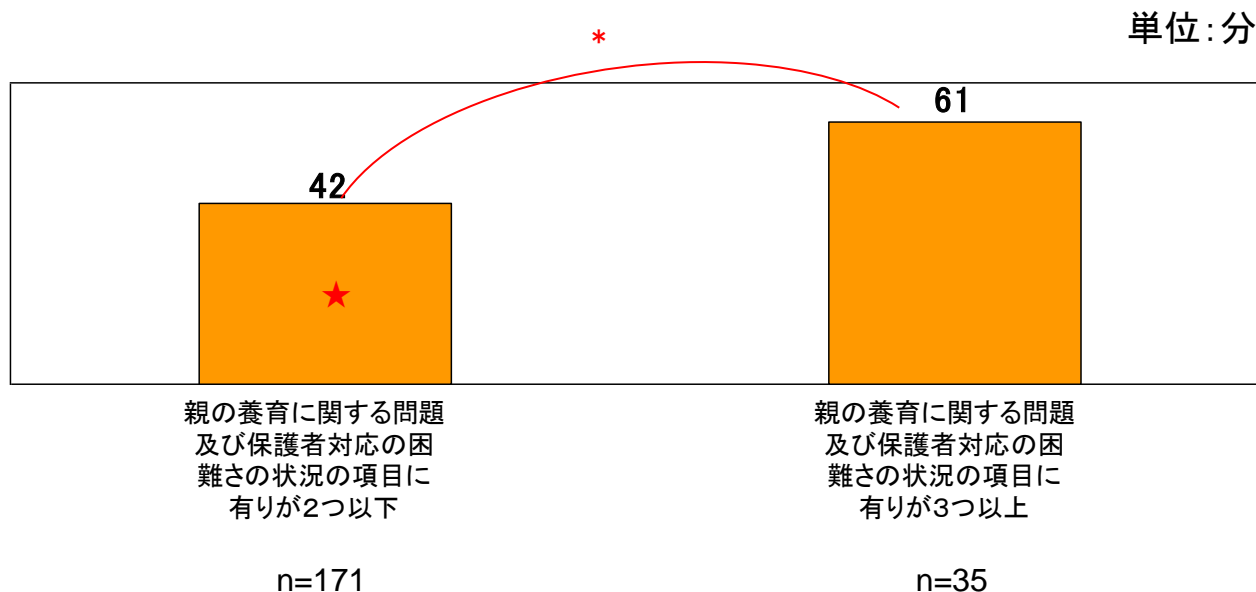
※「6か月未満」の方が、「9歳～12歳未満」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(1%水準で有意)。

※「2歳～3歳未満」の方が、「9歳～12歳未満」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(10%水準で有意傾向)。

*** ~ 1%水準で有意

* ~ 10%水準で有意傾向

【子ども状態等編】結果(母子・児童)②

親の養育に関する問題及び保護者対応の困難さの状況別
子ども一人あたりケア時間／日(母子生活支援施設)

・親の養育に関する問題及び保護者対応の困難さがある方が、子ども一人あたりケア時間が長くなっている。

※「親の養育に関する問題及び保護者対応の困難さの状況の項目に有りが3つ以上」の方が、「親の養育に関する問題及び保護者対応の困難さの状況の項目に有りが2つ以下」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(10%水準で有意傾向)。

* ~ 10%水準で有意傾向

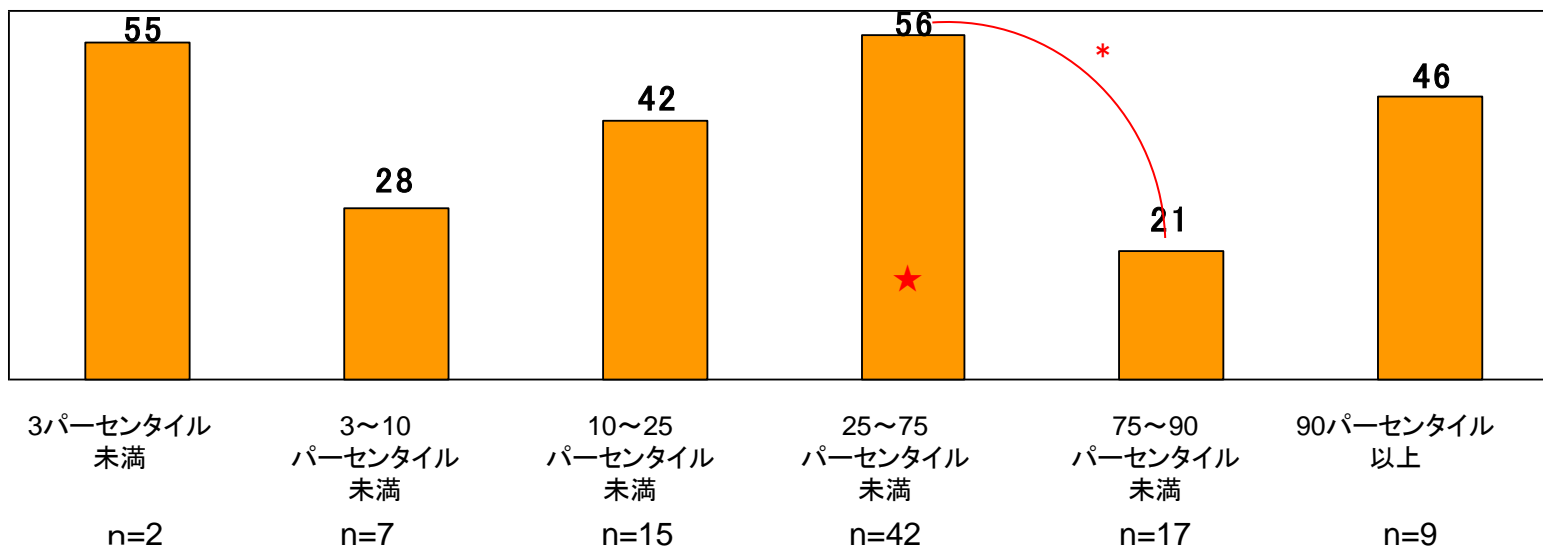
【子ども状態等編】結果(母子・児童)③

身体、発育の状態別(体重)子ども一人あたり

ケア時間／日(母子生活支援施設)

※就学前児童のみ

単位:分



★:基準値

※体重が、「75~90パーセンタイル以上(やや多い)」の方が、「25~75パーセンタイル(標準範囲)」に比べ、子ども一人あたりケア時間が短くなっている(10%水準で有意傾向)。

◆乳幼児身体発育曲線による分類(体重)

3パーセンタイル未満	～ かなり少ない
3~10パーセンタイル未満	～ とても少ない
10~25パーセンタイル未満	～ やや少ない
25~75パーセンタイル未満	～ 標準範囲
75~90パーセンタイル未満	～ やや多い
90パーセンタイル以上	～ とても多い

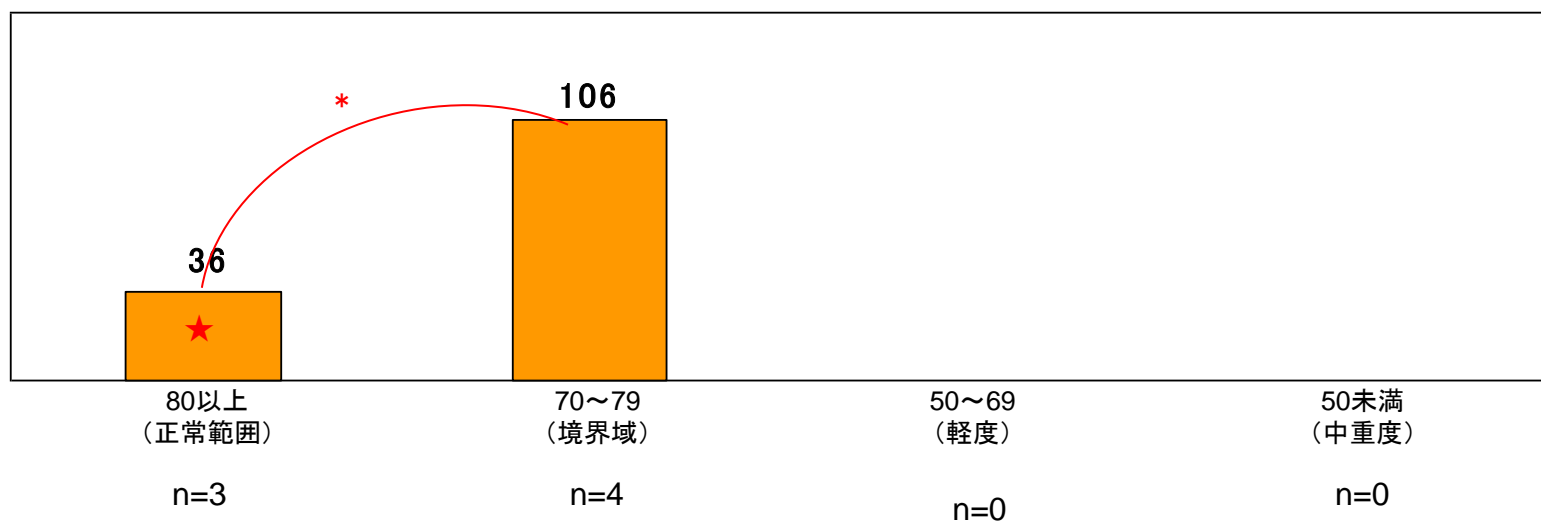
* ~ 10%水準で有意傾向

【子ども状態等編】結果(母子・児童)④

知能指数又は発達指数別

子ども一人あたりケア時間／日(母子生活支援施設)

単位:分



★:基準値

・知能指数又は発達指数が「70~79(境界域)」の方が、子ども一人あたりケア時間が長くなっている。

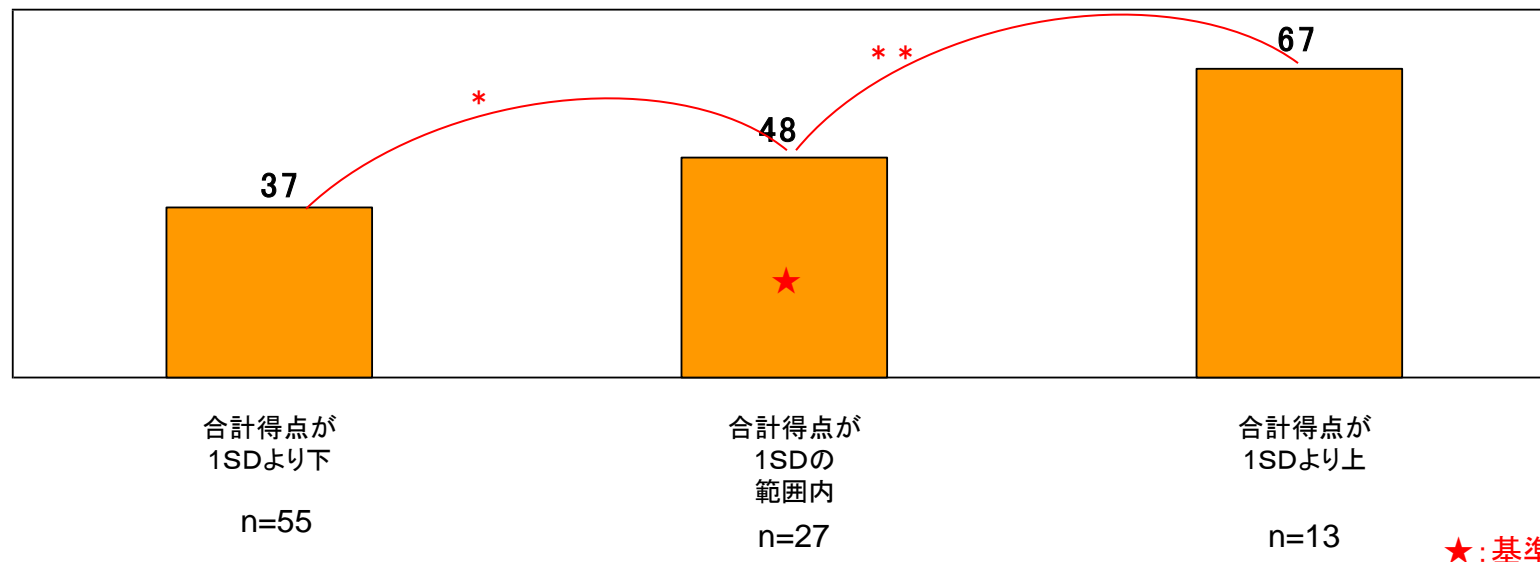
※知能指数又は発達指数が「70~79(境界域)」の方が、「80以上(正常範囲)」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(10%水準で有意傾向)。

* ~ 10%水準で有意傾向

【子ども状態等編】結果(母子・児童)⑤

情緒・行動上の特徴(児童)のレベル別子ども一人あたり ケア時間／日(就学後児童)(母子生活支援施設)

単位:分



・児童の情緒・行動上の問題が多いほど、子ども一人あたりケア時間が長くなっている。

※情緒・行動上の特徴(児童)の合計得点が、「1SDより上」の方が、「1SDの範囲内」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(5%水準で有意)。

※情緒・行動上の特徴(児童)の合計得点が、「1SDより下」の方が、「1SDの範囲内」に比べ、子ども一人あたりケア時間が短くなっている(10%水準で有意傾向)。

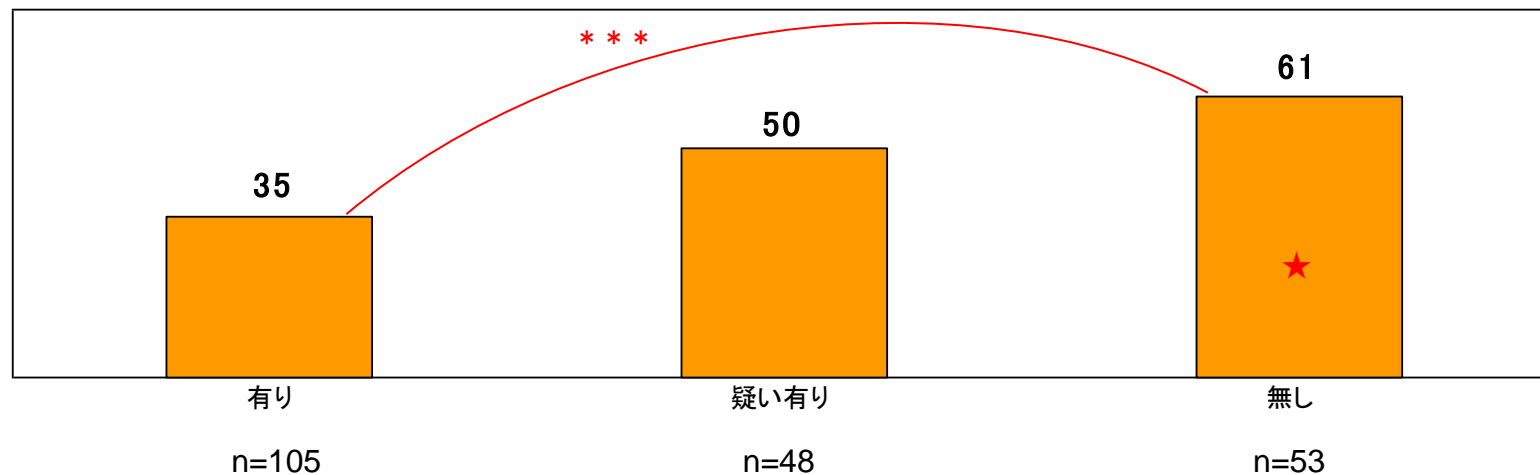
合計得点が1SDより下 ~ 標準より情緒・行動上の問題が少ない
 合計得点が1SDの範囲内 ~ 標準範囲
 合計得点が1SDより上 ~ 標準より情緒・行動上の問題が多い

** ~ 5%水準で有意 * ~ 10%水準で有意傾向

【子ども状態等編】結果(母子・児童)⑥

被虐待体験の有無(児童)別子ども一人あたりケア時間／日
(母子生活支援施設)

単位:分

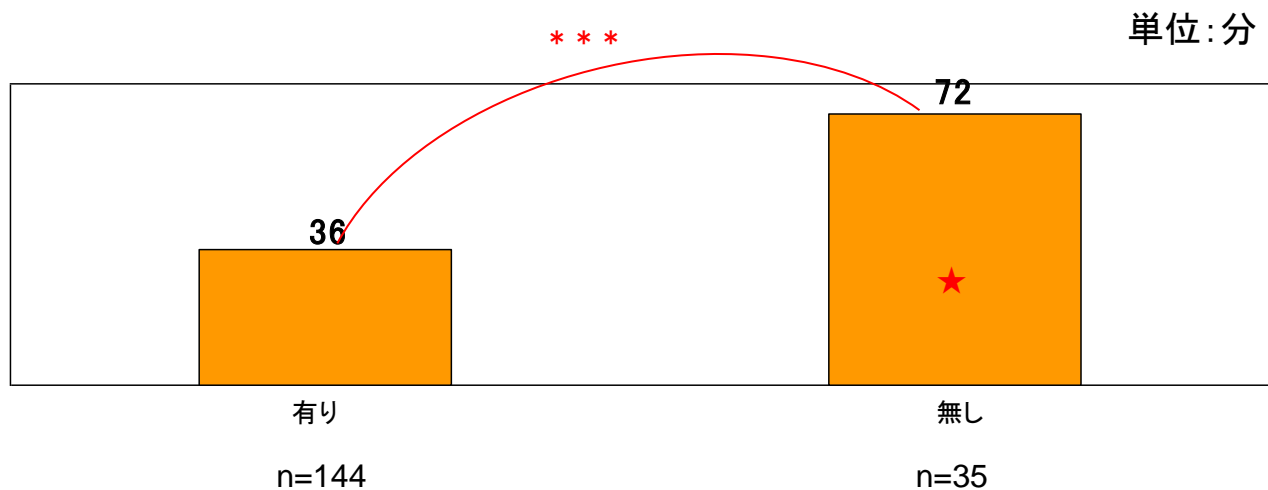


★:基準値

※被虐待体験「有り」の方が、「無し」に比べ、子ども一人あたりケア時間が短くなっている(1%水準で有意)。

*** ~ 1%水準で有意

【子ども状態等編】結果(母子・児童)⑦

家族への支援(児童)の有無別子ども一人あたり
ケア時間／日(母子生活支援施設)

★:基準値

※家族への支援「有」の方が、「無」に比べ、子ども一人あたりケア時間が短くなっている(1%水準で有意)。

*** ~ 1%水準で有意

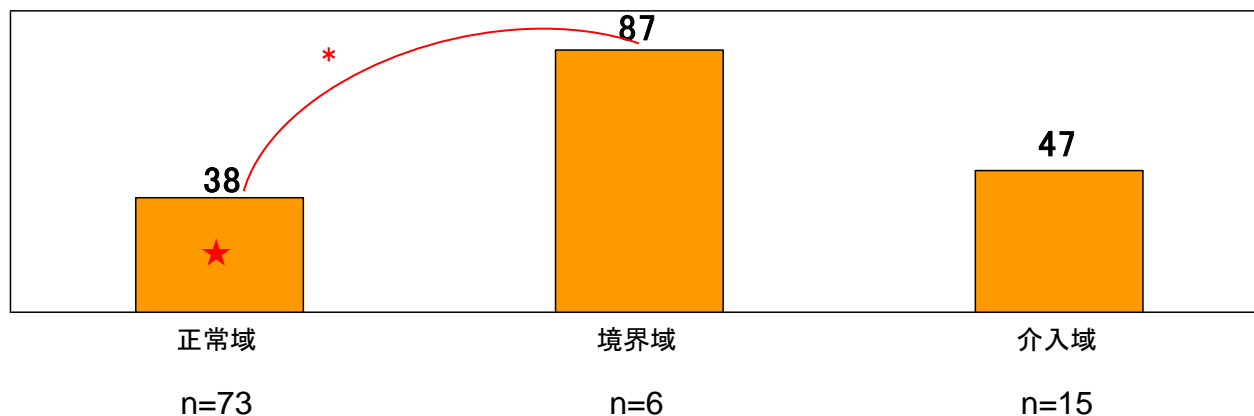
○家族への支援の有無

当該児童の家族等に対する面接や家庭訪問など継続的な
家族支援の有無

【子ども状態等編】結果(母子・児童)⑧

「養育問題のある子どもの行動チェックリスト(就学前児童)」の
評価レベル別子ども一人あたりケア時間/日(母子生活支援施設)

単位:分



★:基準値

・「養育問題のある子どもの行動チェックリスト」の評価が「境界域(できるだけ特別なケアが必要)」が、子ども一人あたりケア時間が最も長くなっている。

※「境界域」の方が、「正常域」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(10%水準で有意傾向)。

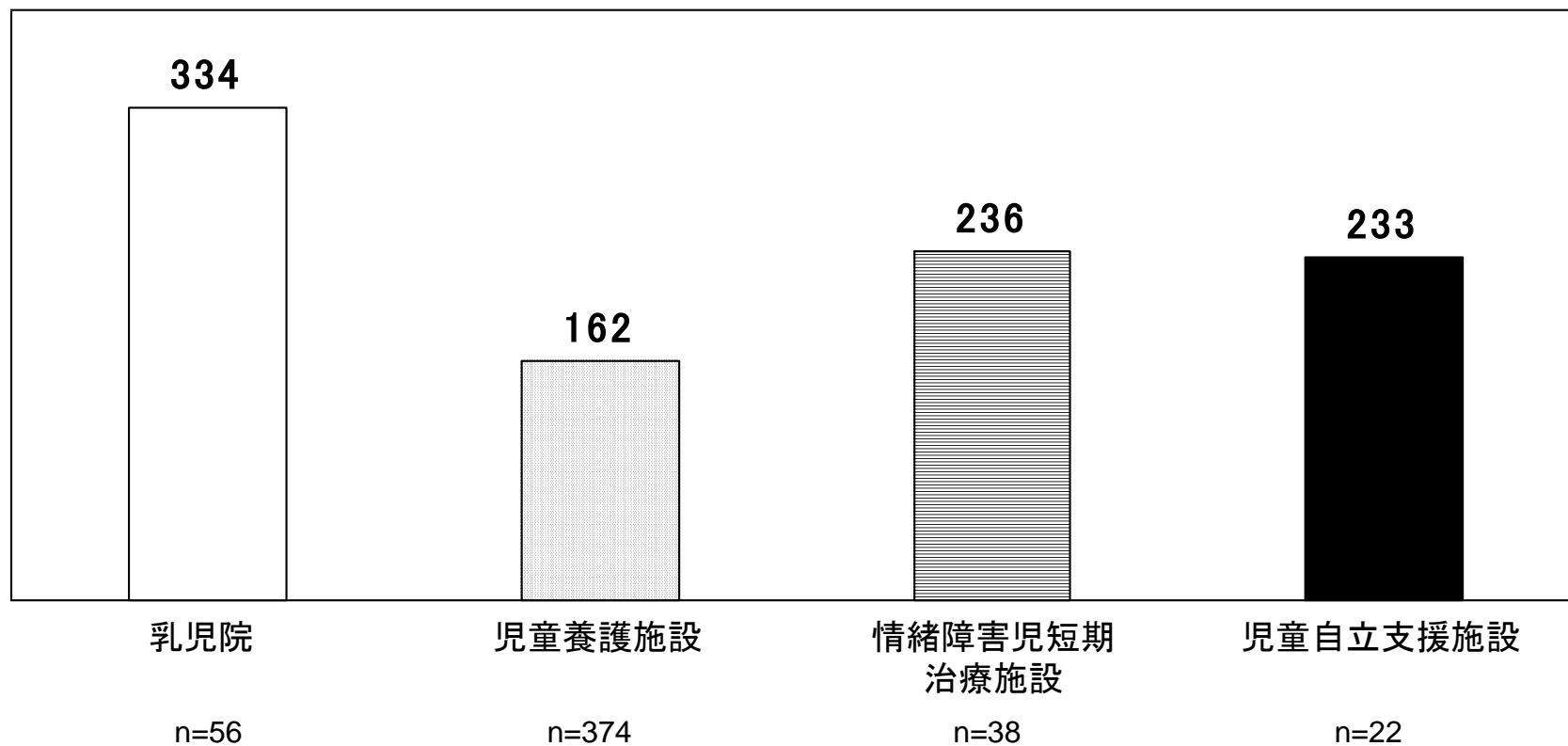
境界域 ~ できるだけ特別なケアが必要
介入域 ~ 特別なケアが必要

* ~ 10%水準で有意傾向

【施設環境編】結果①

施設種別別子ども一人あたりケア時間／日

単位：分

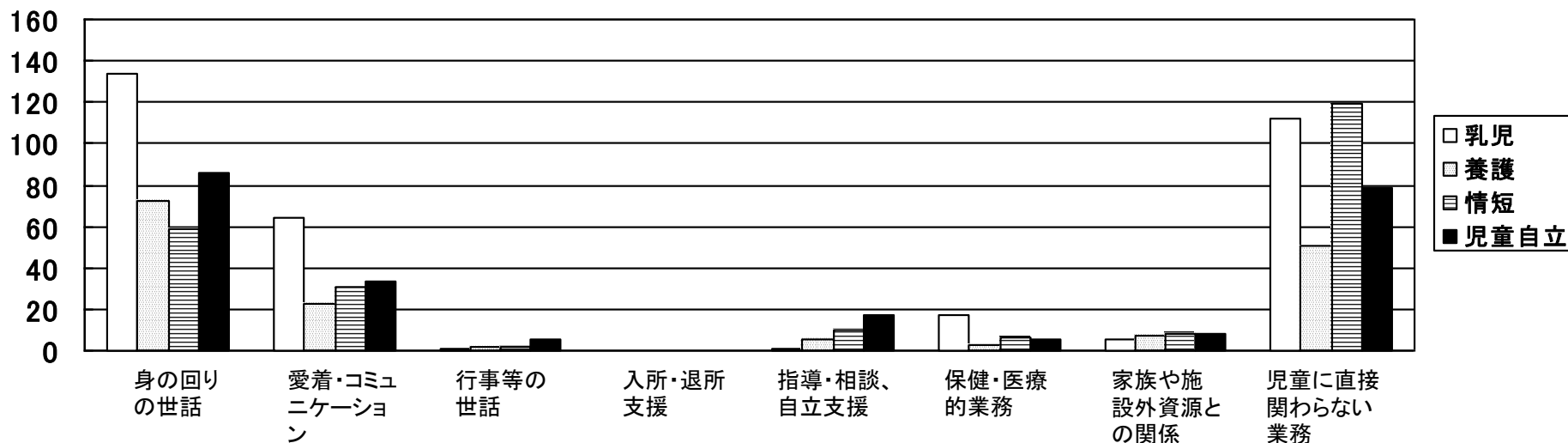


- ・施設種別別による子ども一人あたりケア時間は、乳児院が最も多く、次いで情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設、児童養護施設の順に長くなっている。

【施設環境編】結果②

施設種別別業務分類別（大分類）
子ども一人あたりケア時間／日

単位：分



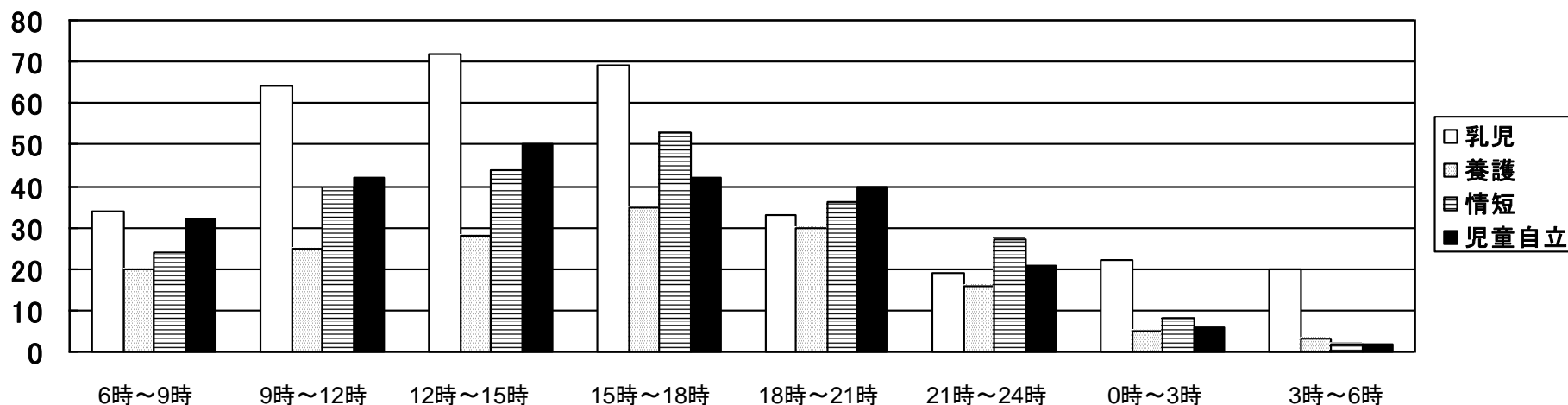
乳児院 (n=56)
 児童養護施設 (n=374)
 情緒障害児短期治療施設 (n=38)
 児童自立支援施設 (n=22)

- ・業務分類別にみると、どの施設種別でも「児童に直接関わらない業務」「身の回りの世話」が子ども一人あたりケア時間が長くなっている。
- ・「身の回りの世話」と「愛着・コミュニケーション」では、乳児院が最も長く、次いで児童自立支援施設、児童養護施設の順に長くなっている。
- ・「児童に直接関わらない業務」では、情緒障害児短期治療施設が最も長く、次いで乳児院、児童自立支援施設の順に長くなっている。

【施設環境編】結果③

施設種別別時間帯別子ども一人あたりケア時間

単位:分



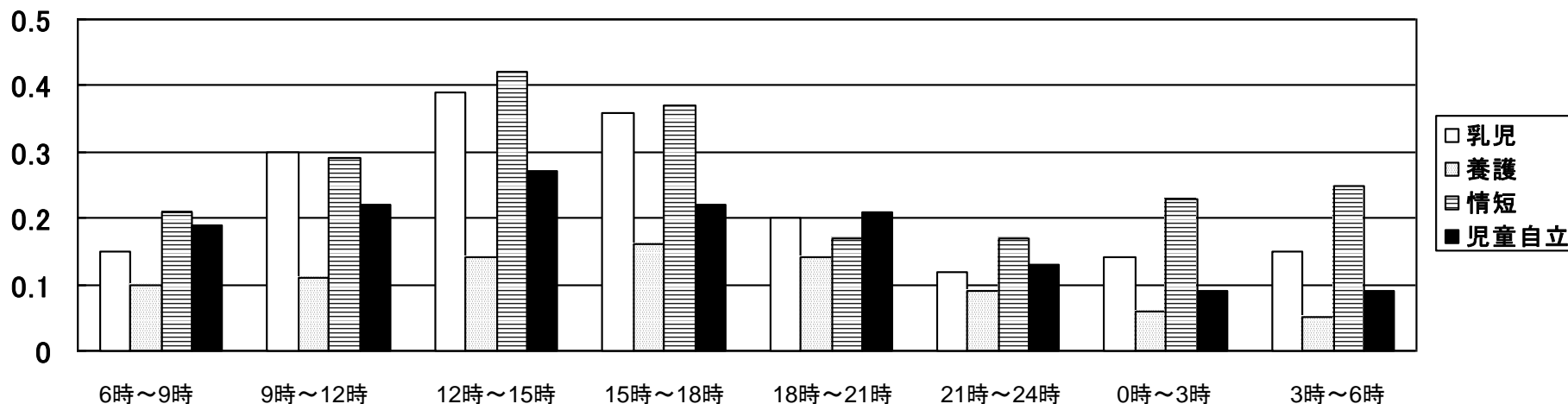
乳児院 (n=56)
 児童養護施設 (n=374)
 情緒障害児短期治療施設 (n=38)
 児童自立支援施設 (n=22)

- ・各施設種別で子ども一人あたりケア時間が最も長くなっている時間帯は、乳児院と児童自立支援施設では「12時～15時」、児童養護施設と情緒障害児短期治療施設では「15時～18時」となっている。
- ・乳児院では、他の施設種別ではケア時間がほとんどない時間帯（「0時～3時」、「3時～6時」）においても一人あたりケア時間が20分程度ある。

【施設環境編】結果④

施設種別別時間帯別実配置職員数

単位:分



実配置職員数

当該時間帯において、職員が児童に対してケアを実施した延べ時間数(休憩時間や仮眠・待機なども含む)を当該時間帯の時間数で除して求めたもの。

実配置職員数の算出には、2日間タイムスタディ調査でのデータのみを用いた(直接ケア職種の職員を中心に算出した)。

乳児院 (n=56)

児童養護施設 (n=374)

情緒障害児短期治療施設 (n=38)

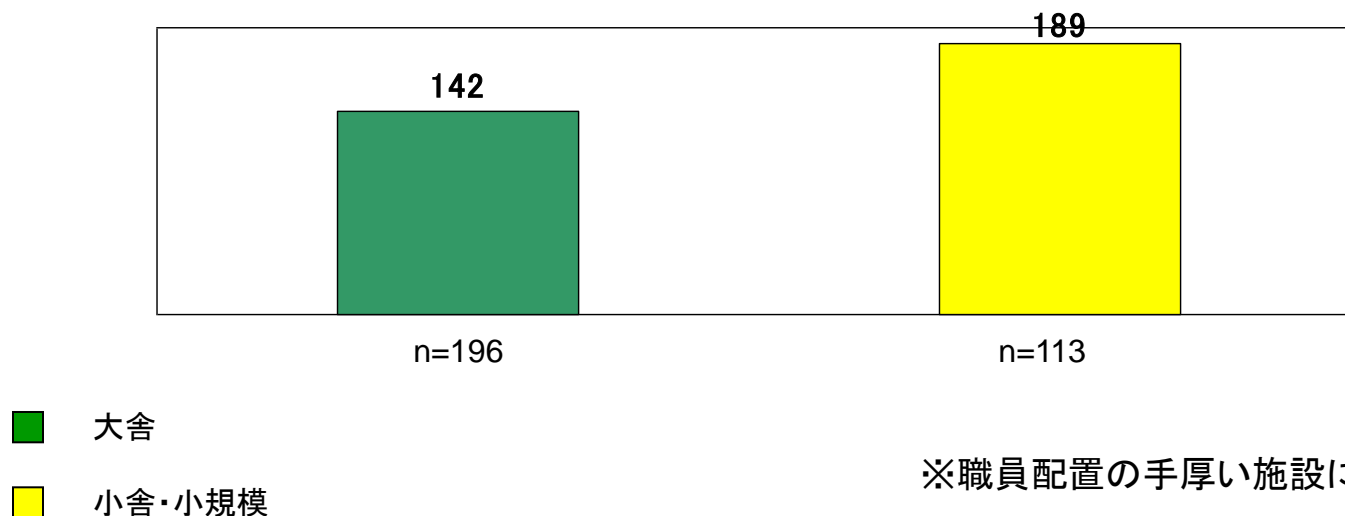
児童自立支援施設 (n=22)

- ・各施設種別で実配置職員数が最も多くなっている時間帯は、児童養護施設以外全ての施設種別で「12時～15時」が最も多く、児童養護施設では、「15時～18時」が最も多くなっている。

【施設環境編】結果⑤

ケア形態別子ども一人あたりケア時間／日
(児童養護施設)

単位:分

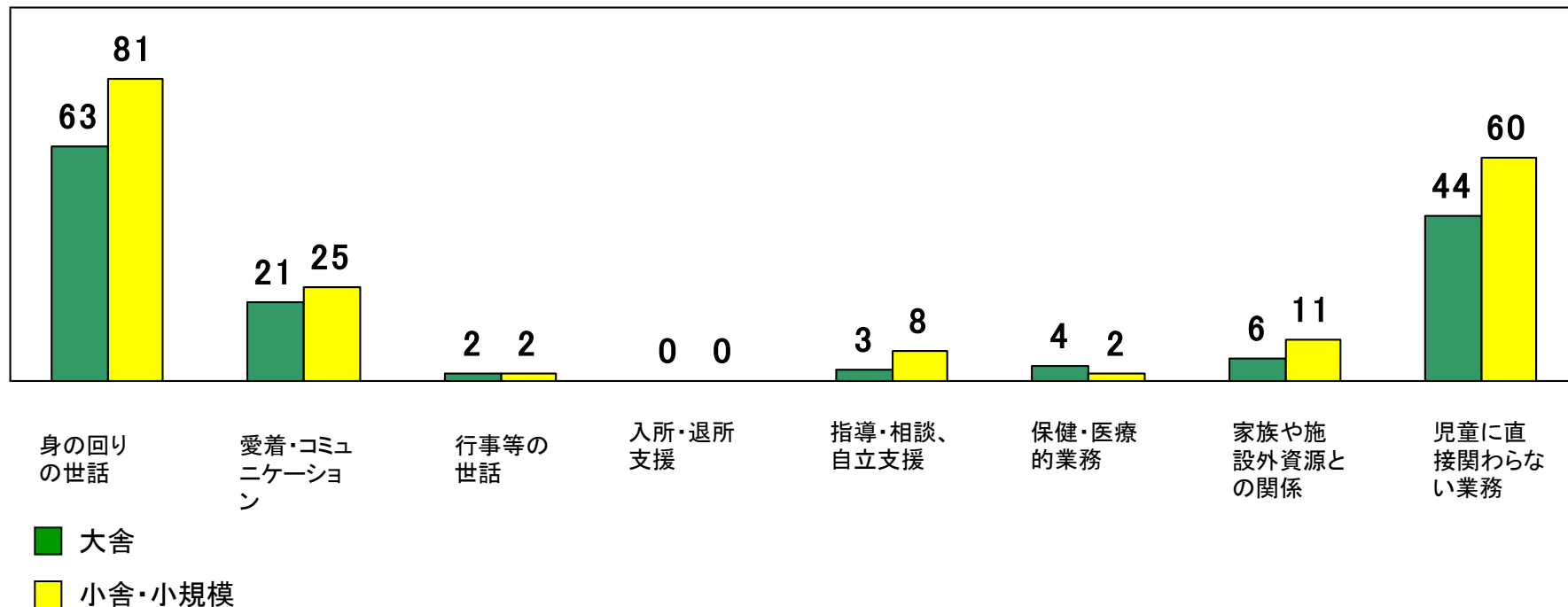


・「小舎・小規模」が189分、「大舎」が142分となっており、子ども一人あたり47分のケア時間の差が見られる。

【施設環境編】結果⑥

ケア形態別業務分類別(大分類)子ども一人あたりケア時間/日
(児童養護施設)

単位:分



・業務分類でみると、「身の回りの世話」、「愛着・コミュニケーション」、「指導・相談、自立支援」「家族や施設外資源との関係」、「児童に直接関わらない業務」において、「小舎・小規模」の方が、「大舎」よりケア時間が長くなっている。